

作:種乃なかみ サークル:ひまわりのたね

93  
ページ

あ  
あ  
あ  
あ  
あ  
あ

+0

チ  
ヨ  
ウ  
シ  
ン  
ジ  
ヨ  
シ  
ニ  
タ  
ベ  
ラ  
キ  
レ  
ル

長身女子に食べられる

ふんね



長身女子に食べられる





これは、私が学生だった頃のとても大切な思い出。  
学生時代、私は比較的内気な性格だったけれど、  
体格に恵まれ育って高身長だった私は、  
求められてバレー部に所属していました。

花岡さん、  
今日もブロック  
上手かったね！

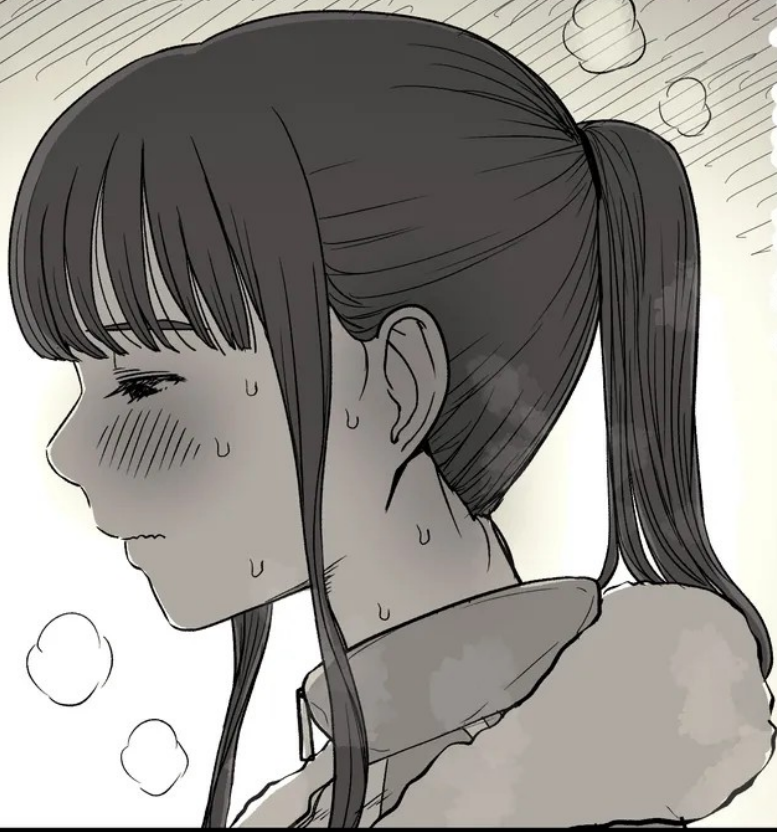
そう？  
ありがとう♪





バレエ部に所属していた私ですが、私は根が内気だから、とても人の目が気になります…

そんな私なので、本当は運動部じゃなくて、文化部か、動物が好きで飼育部に入りたかったんです…



私の大きな体でバレエをやると注目され、運動中はかなり視線が気になります…特に大きな胸が揺れて視線が…

恥ずかしさを誤魔化すように隠すように、無理矢理気持ちを抑え消しながらバレエをやっていました…

バレエ部に強く誘われて入ってしまった事を後悔しつつも、部員の皆は私なんかにとっても親しく接してくれるし、背の高さでブロック役として重宝されていて、

私の事を欠かせない一員だと求めてくれているので、その事は嬉しく、バレエ部の皆の事を考えると辞められません…





皆からの私の体に対する視線：

特に男子達からの：

舐めるような視線がいつも私のこの体に集まり：



私も歳頃の女子です。

恋愛にも興味が有り、異性からそのような目で見られる事に、嫌な気持ちと嬉しい気持ち、両方が入り混じっていました：



今まで告白されたり、体の関係をお誘いされる事も多かったけれど、私の好みと違う男子ばかり。

私は、バレー中の私の体を見に来ているような男子達は好みではありません。私が好きなタイプの男子は、そのようなチャラチャラした人ではなくて：



私は、飼育部のとある男子に好意を寄せていました。

私の好みの男子は、  
同じクラスの飼育部で、動物好きのマキ君。

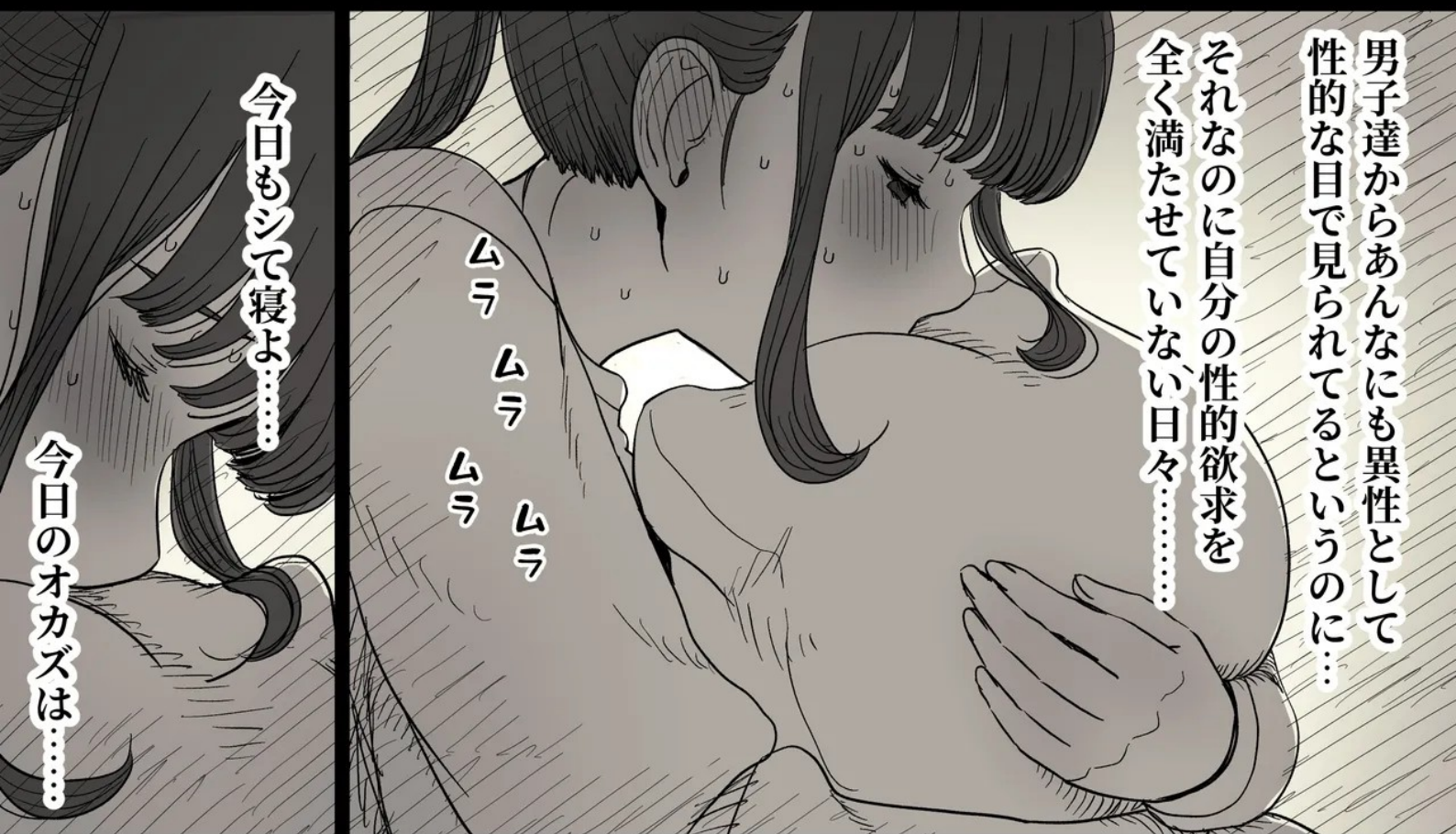


マキ君は動物に好かれていて、  
飼育室でいつもウサギに襲われています。



マキ君かわいい…  
今日もかわいい…











マキ君……

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

もに♡

フッ

フッ

ドキ

ドキ

フッ

フッ

ドキ

マキ君を襲って  
可愛がってみたい……

まだ若いのに育ちきって  
熟れた私の体……

きつと、他の子よりも  
だいぶ性欲も強い……

フッ

フッ

フッ

フッ

フッ

フッ

フッ

ぎゅっ……



一日に何度もオナニーしてしまいます……  
朝、寝起きにもシてしまうし、  
学校でもムラムラして、  
休み時間にお手洗いでもシてしまいます……



lv

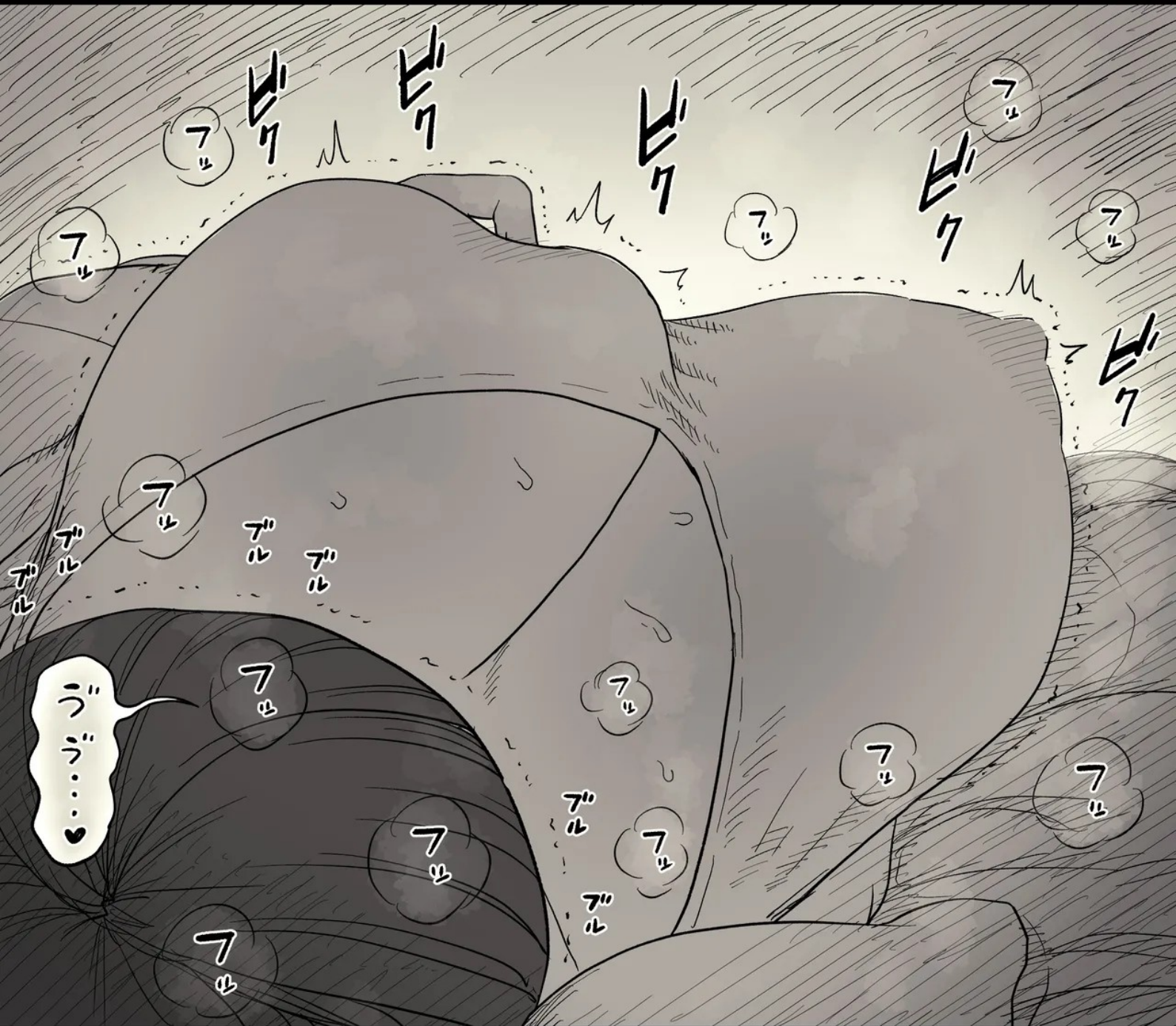
えっちな体  
してる……

[illegible]













クリも……

フ

フ

フ

トロ♡

トロ♡

こんなに  
大きく硬くなって……

いっぱい濡れやすく……

私……えっち……



えっち……  
私……えっち……

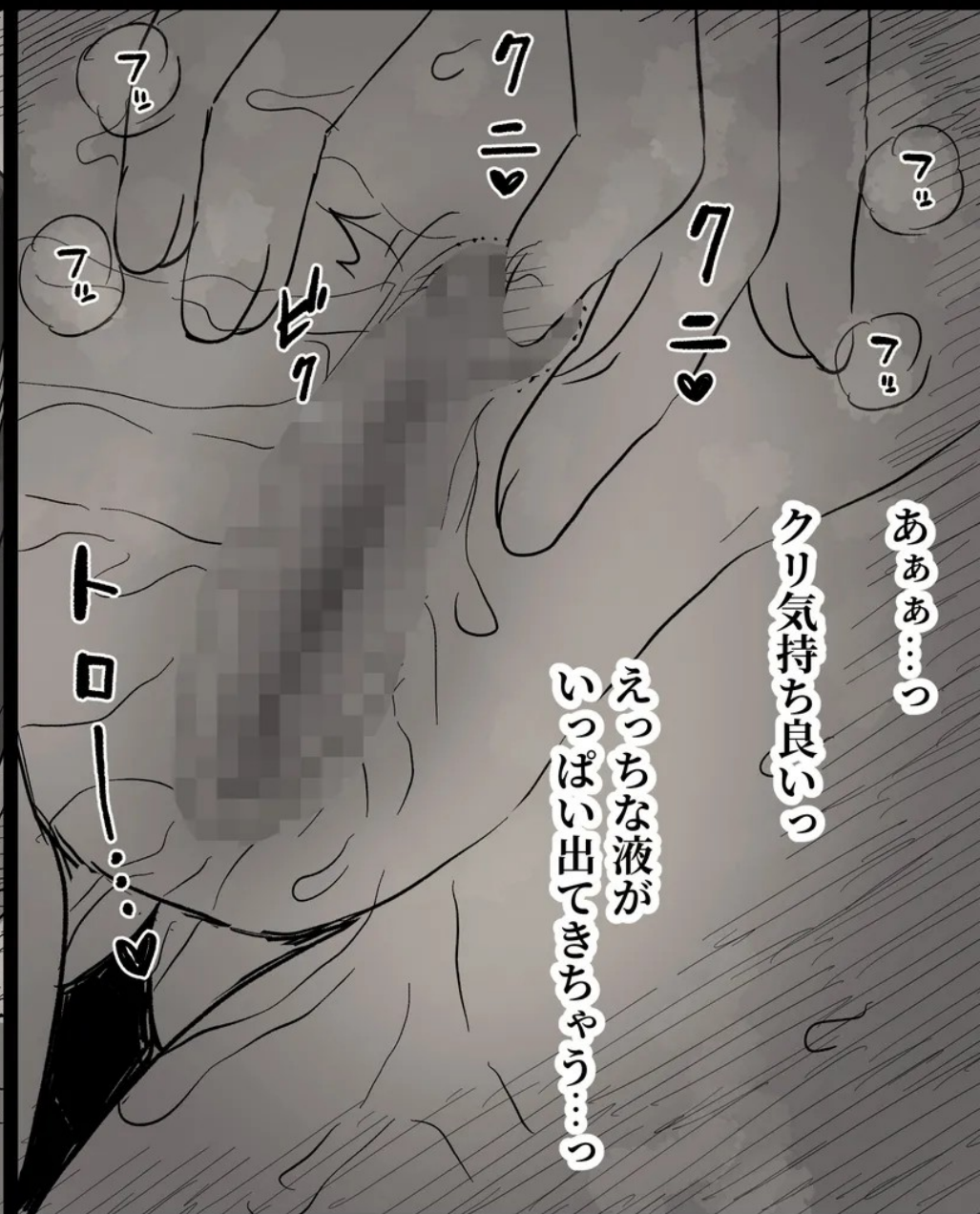
フ

フ

フ

フ

フ



あああ……っ

クリ気持ち良いっ

えっちな液が  
いっぱい出てきちゃう……っ

フ

フ

クニ♡

クニ♡

クニ♡

フ

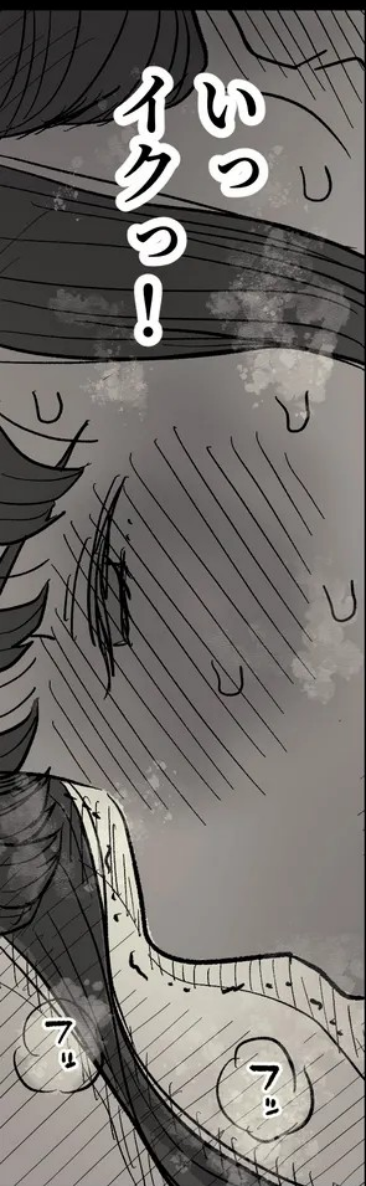
フ

トロ……♡

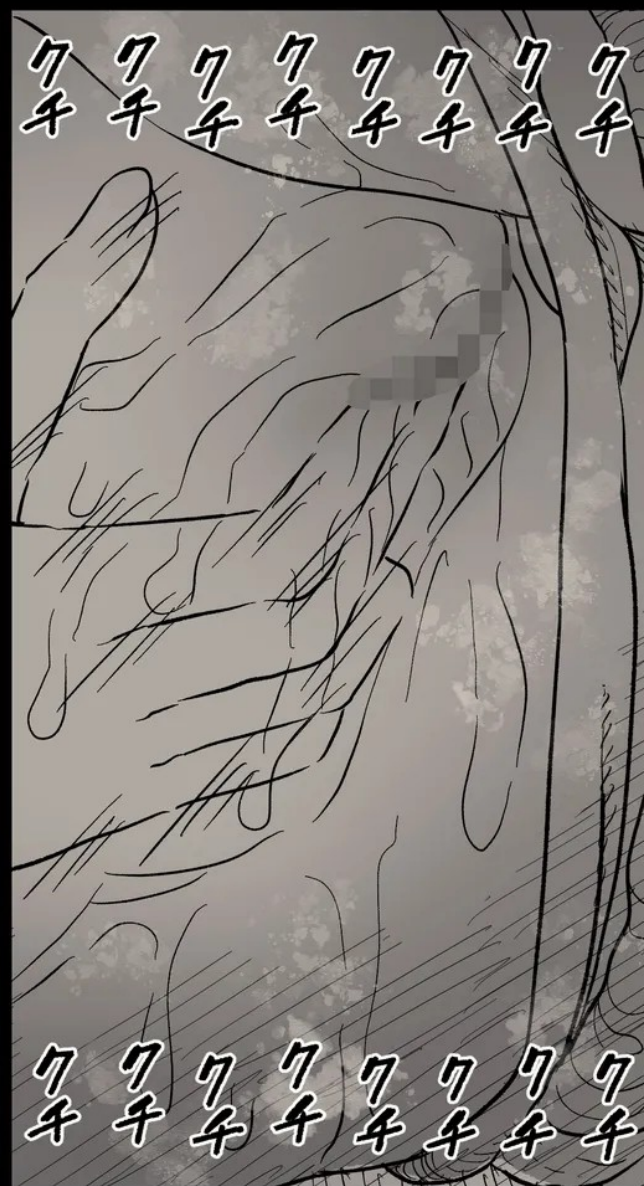
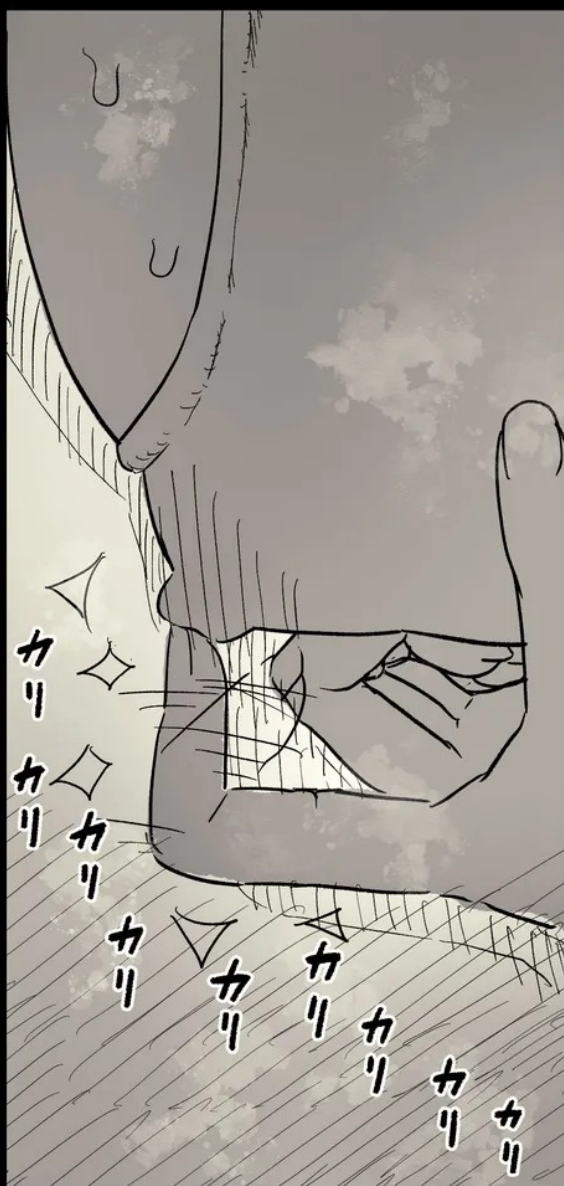


何もかも忘れて一心不乱に  
自慰してしまう私…

抑えきれない性欲…  
快感に没頭して…



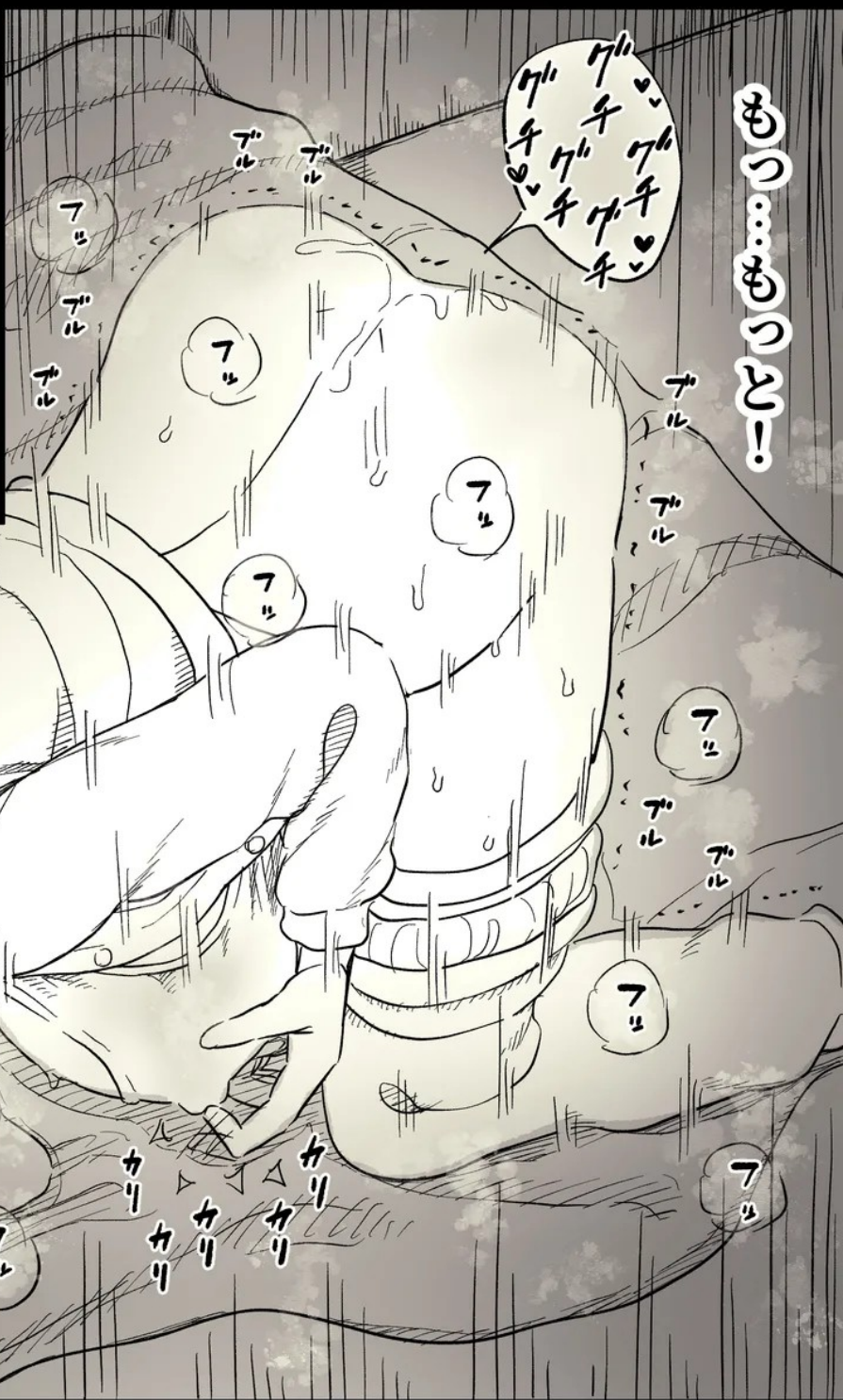
いっ  
イクッ!



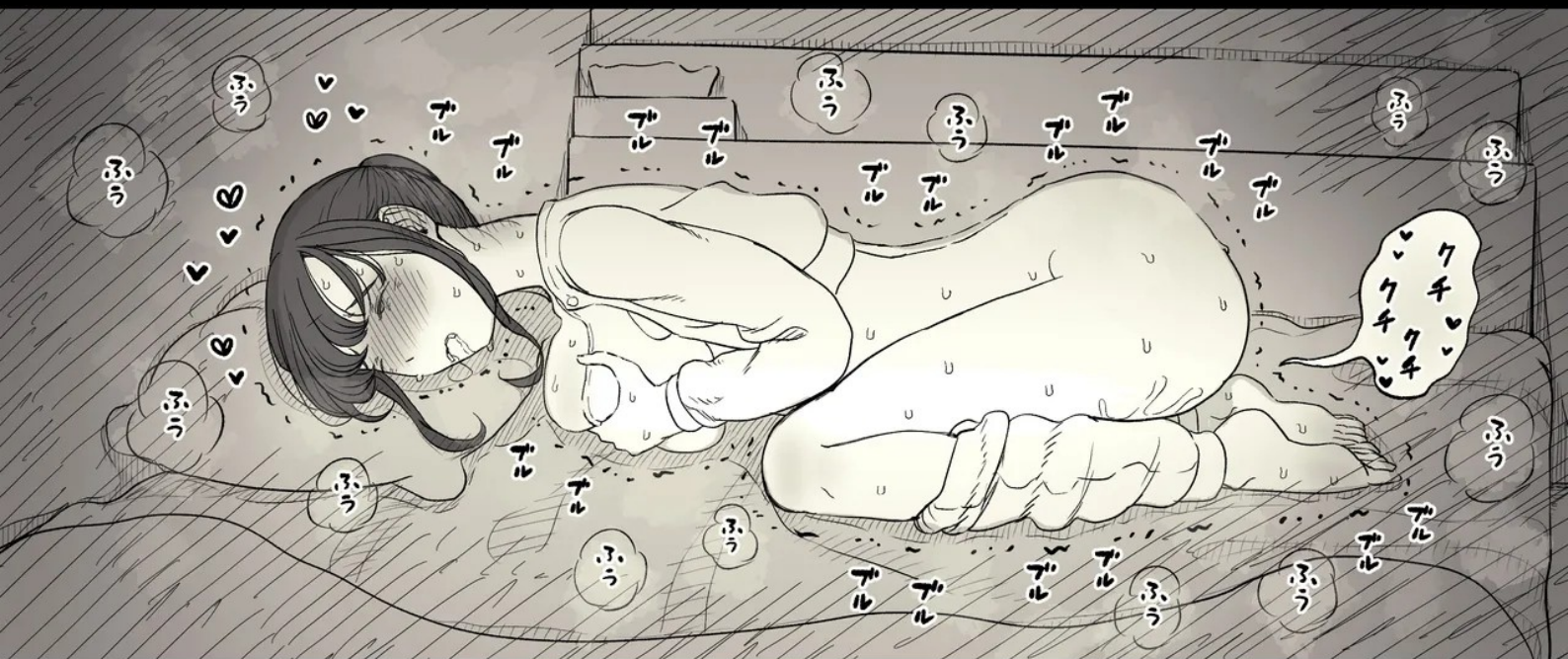
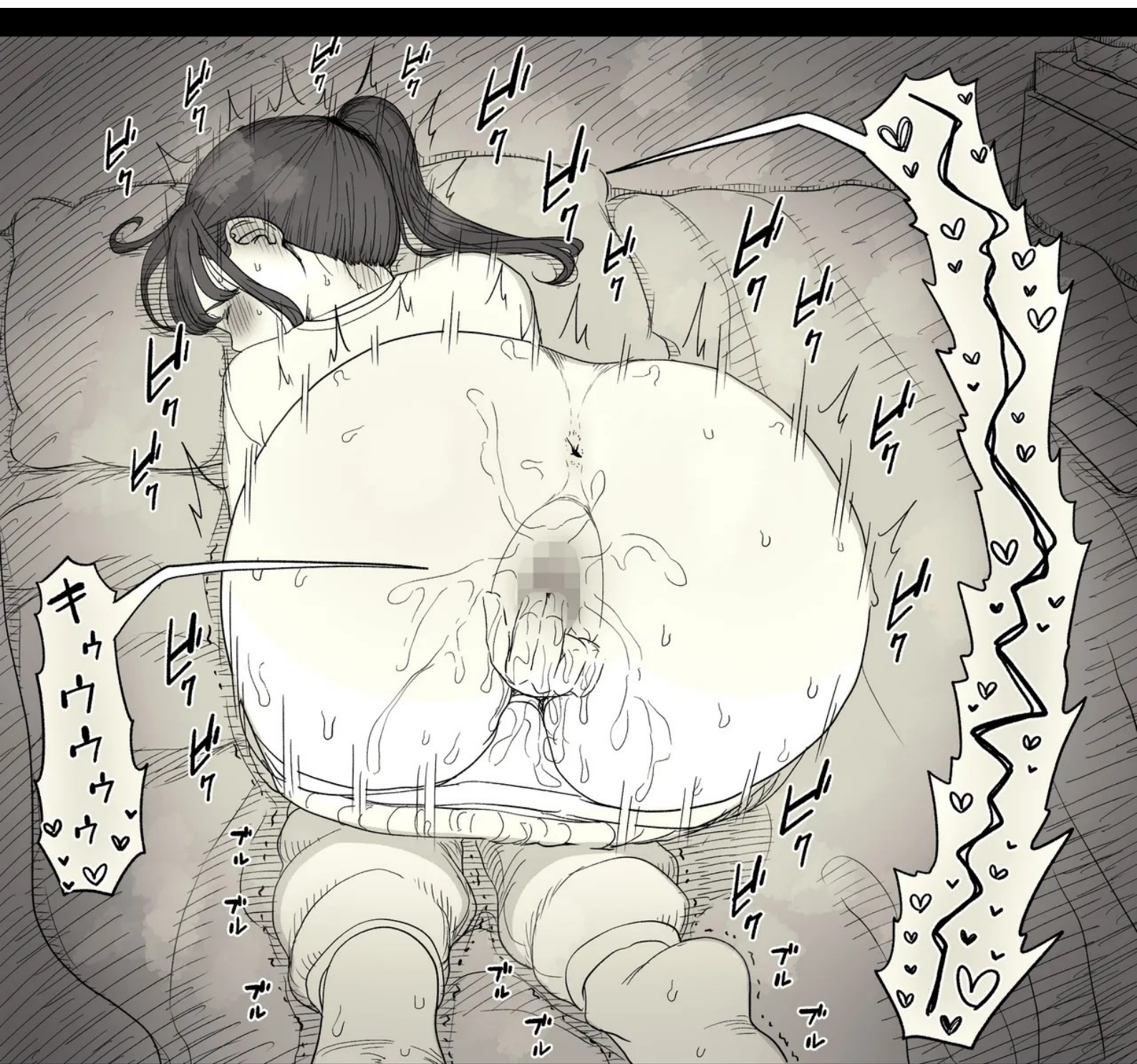




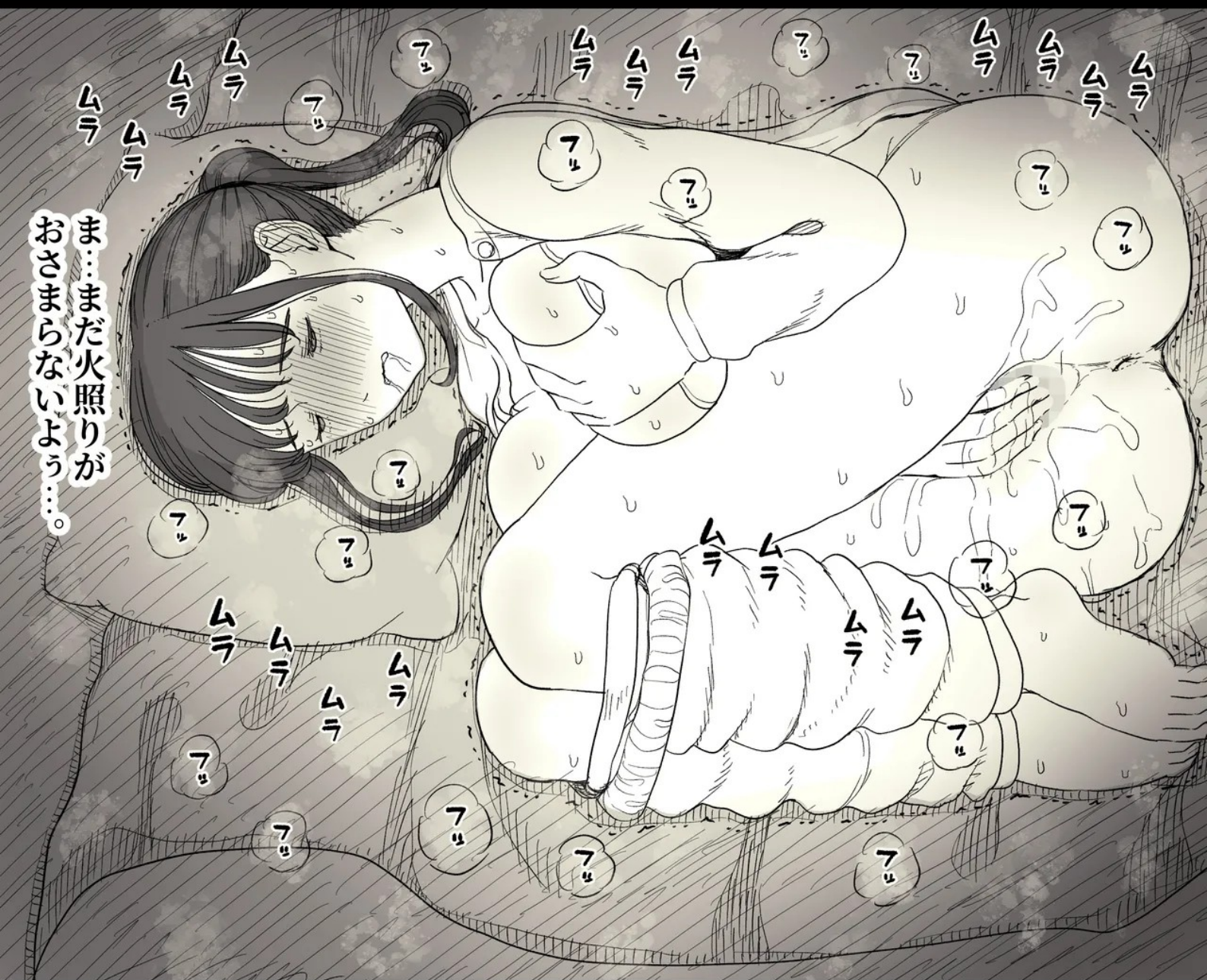




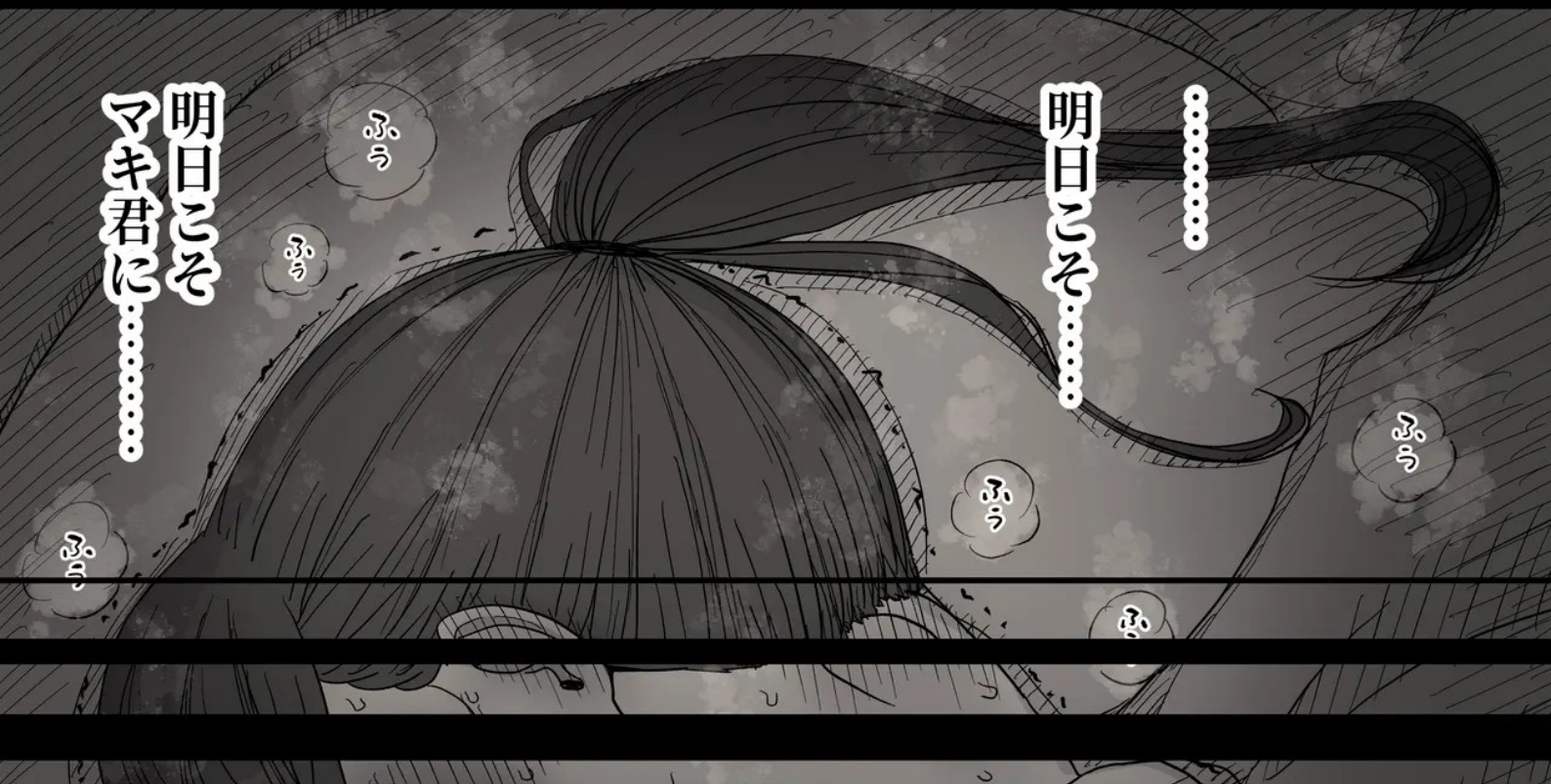












明日こそ……

……

明日こそ  
マキ君に……

ふう

ふう

ふう

ふう

ふう

ふう



私は意を決して、放課後、マキ君を旧校舎の使われていない教室に呼び出し…

そして、告白しました。



















ね?

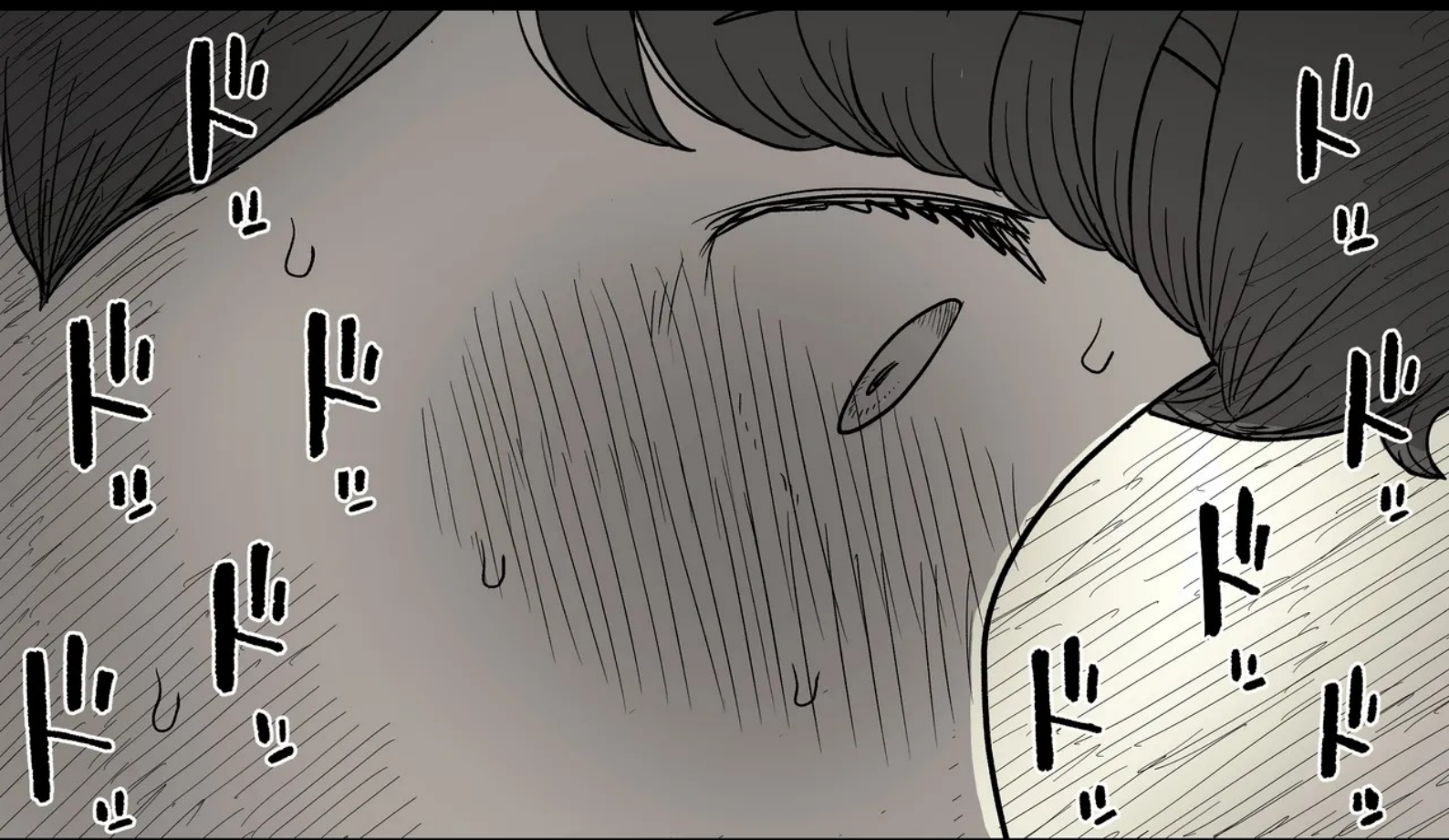
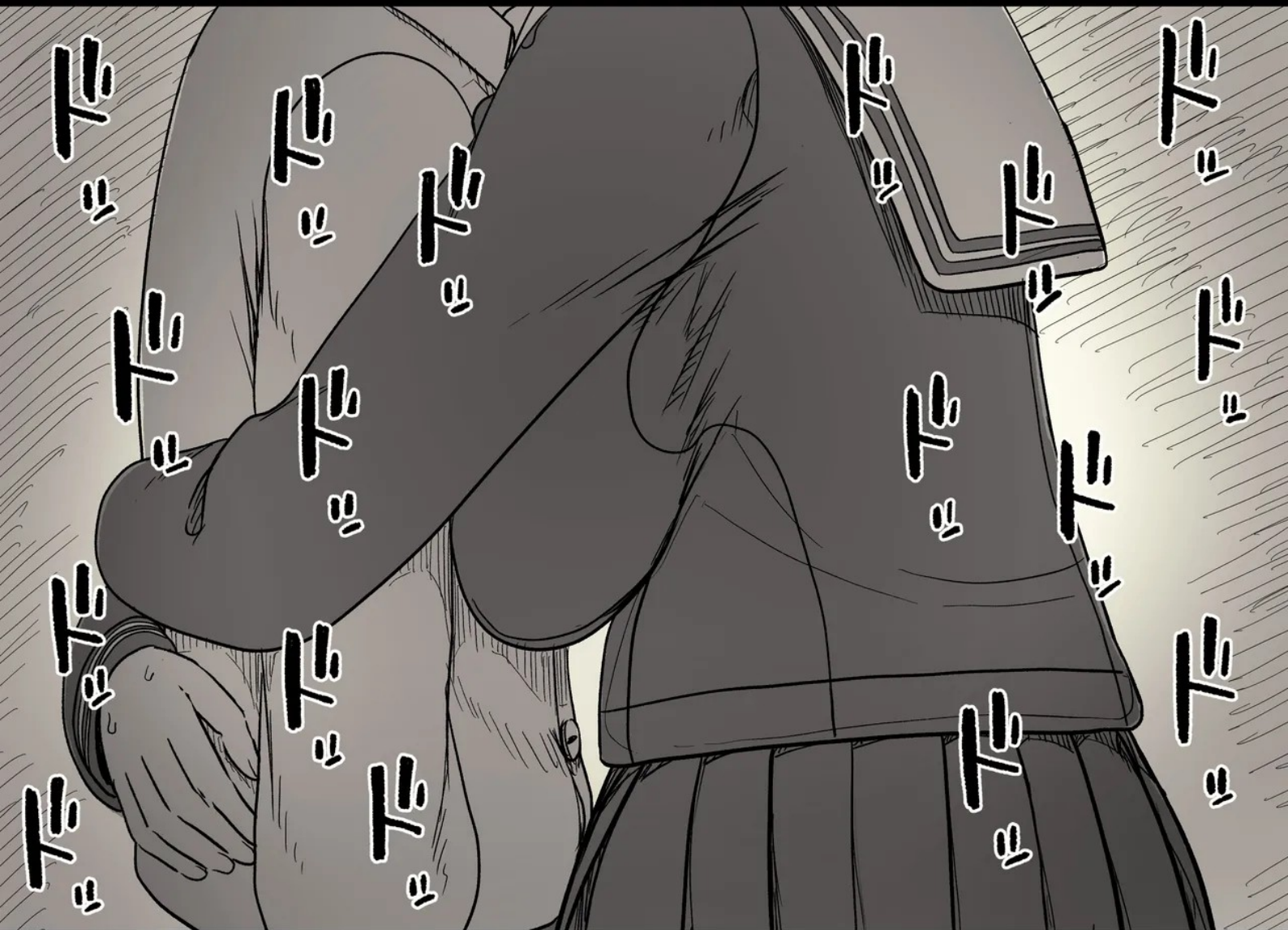
きゅ

う











ま……

マキ君の下が…  
硬くなってる…

これ……

そうだよね……？

マキ君が私に興奮してくれてるっ  
嬉しいっ！嬉しいっ！嬉しいっ！

硬いのが……

私のモモに  
当たってるよ……？

う  
う  
う  
...

不

三

まっ  
マキ君っ

も、  
もう私つ

ムラ

ム

ム  
ヲ

47

はあ、

ムラ

はあっ

はあッ

私だめっ！  
我慢できないっ

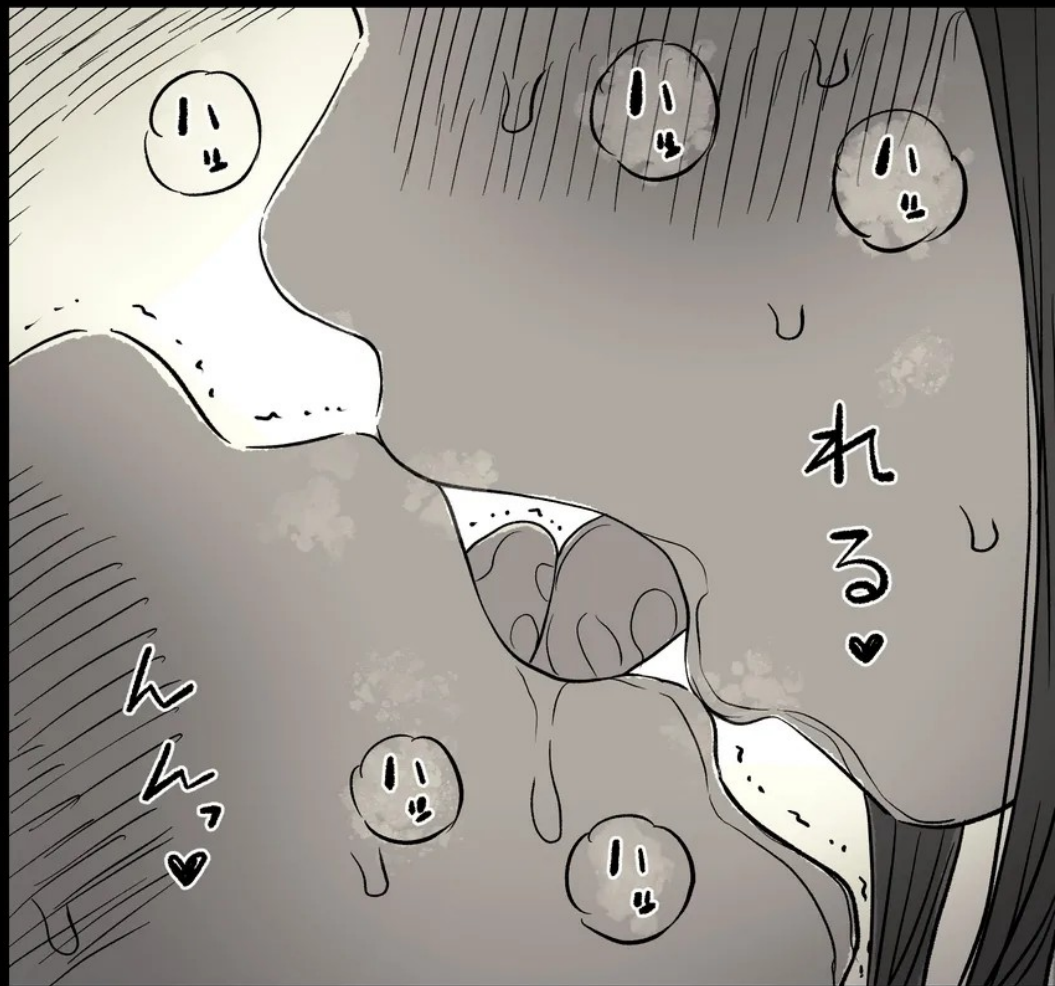






















意中の人がまだ童貞だったという事を聞いて、

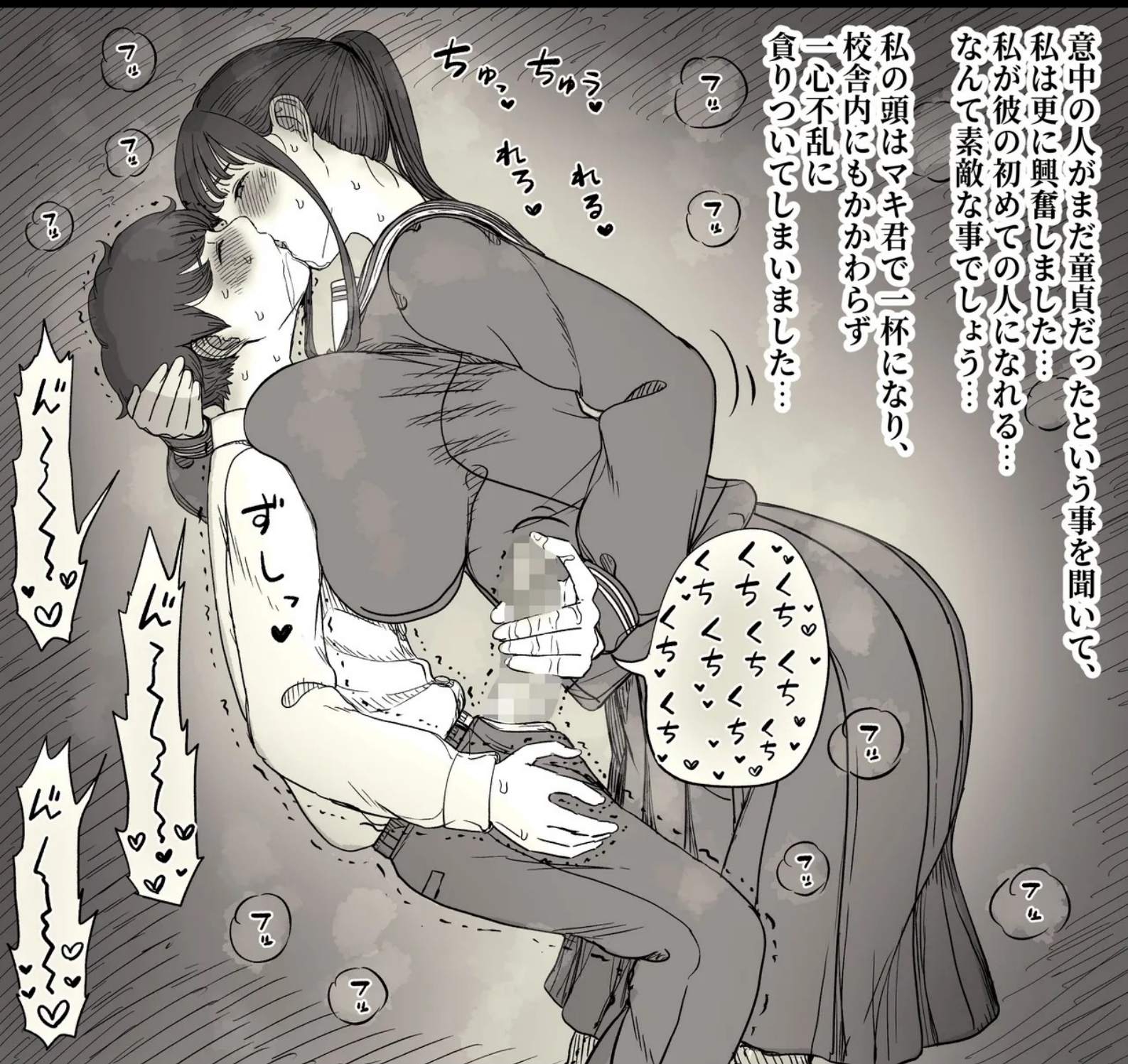
私は更に興奮しました…

私が彼の初めての人になれる…

なんて素敵な事でしょう…

私の頭はマキ君で一杯になり、  
校舎内にもかかわらず

一心不乱に  
貪りついでしまいました…



彼にとつて

一生忘れられない

思い出になるように…

くちくちくち

くち

くち

くち

くち

くち

くち

彼が今日の事を

何度も何度も思い出して

自慰してしまおうように…

そのくらいの忘れられない

出来事になるように

私は彼を…



























かつ可愛いっ

マキ君可愛いっ



ううう…  
時間が…っ

だいぶ日が暮れて  
きちゃったね…  
真っ暗になっちゃう…っ

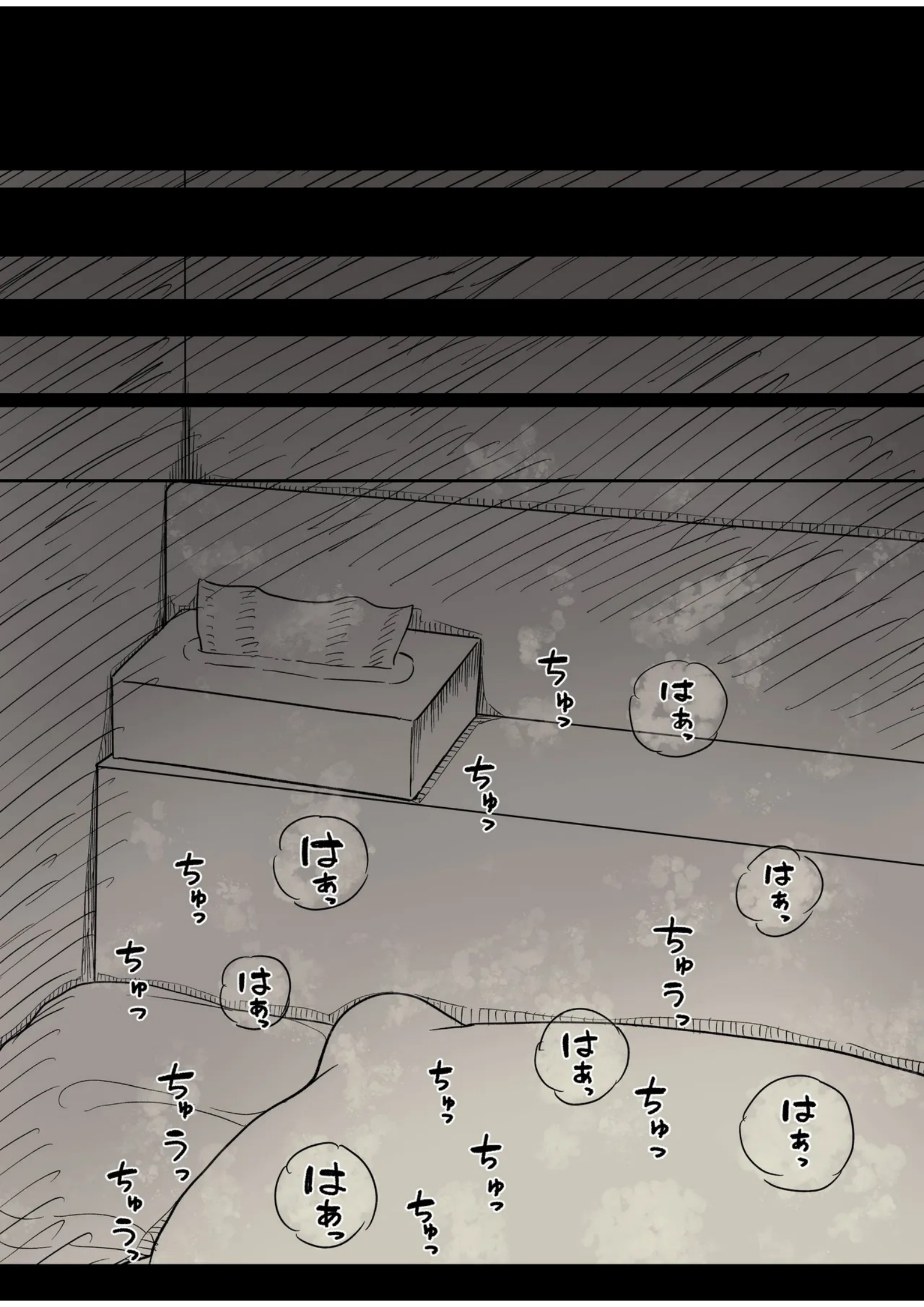
続きはウチでしょ？  
私の親いつも  
帰りが遅いから…

大丈夫だからっ









ちゅっ

はぁっ

ちゅっ

はぁっ

ちゅっ

はぁっ

ちゅっ

はぁっ

ちゅっ

はぁっ

ちゅっ

はぁっ

ちゅっ

ちゅっ

はぁっ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

















カチカチの  
おちんちん……♡

食べちゃっても……  
いい……?















ぢゅぽ ぢゅぽ ぢゅぽ

ぢゅぽ ぢゅぽ ぢゅぽ

これをつ

このカチカチで  
おっきいのをつ!

ぢゅぽ

ぢゅぽ

ぢゅぽ

私の中につ  
入りたいっ!  
入りたいっ!

イッ  
ぢゅぽ

ガッ  
ガッ  
ガッ

ガッ  
ガッ  
ガッ

ガッ  
ガッ  
ガッ

ガッ  
ガッ  
ガッ

ガッ  
ガッ  
ガッ

ガッ  
ガッ  
ガッ

ガッ  
ガッ  
ガッ

ガッ  
ガッ  
ガッ

ガッ  
ガッ  
ガッ

ガッ  
ガッ  
ガッ

ガッ  
ガッ  
ガッ

で、出てるっ!  
マキ君の精子っ!  
お口の中につ!  
美味しいっ! 美味しいっ!

ドッ  
ドッ  
ドッ  
ドッ  
ドッ  
ドッ  
ドッ  
ドッ  
ドッ  
ドッ

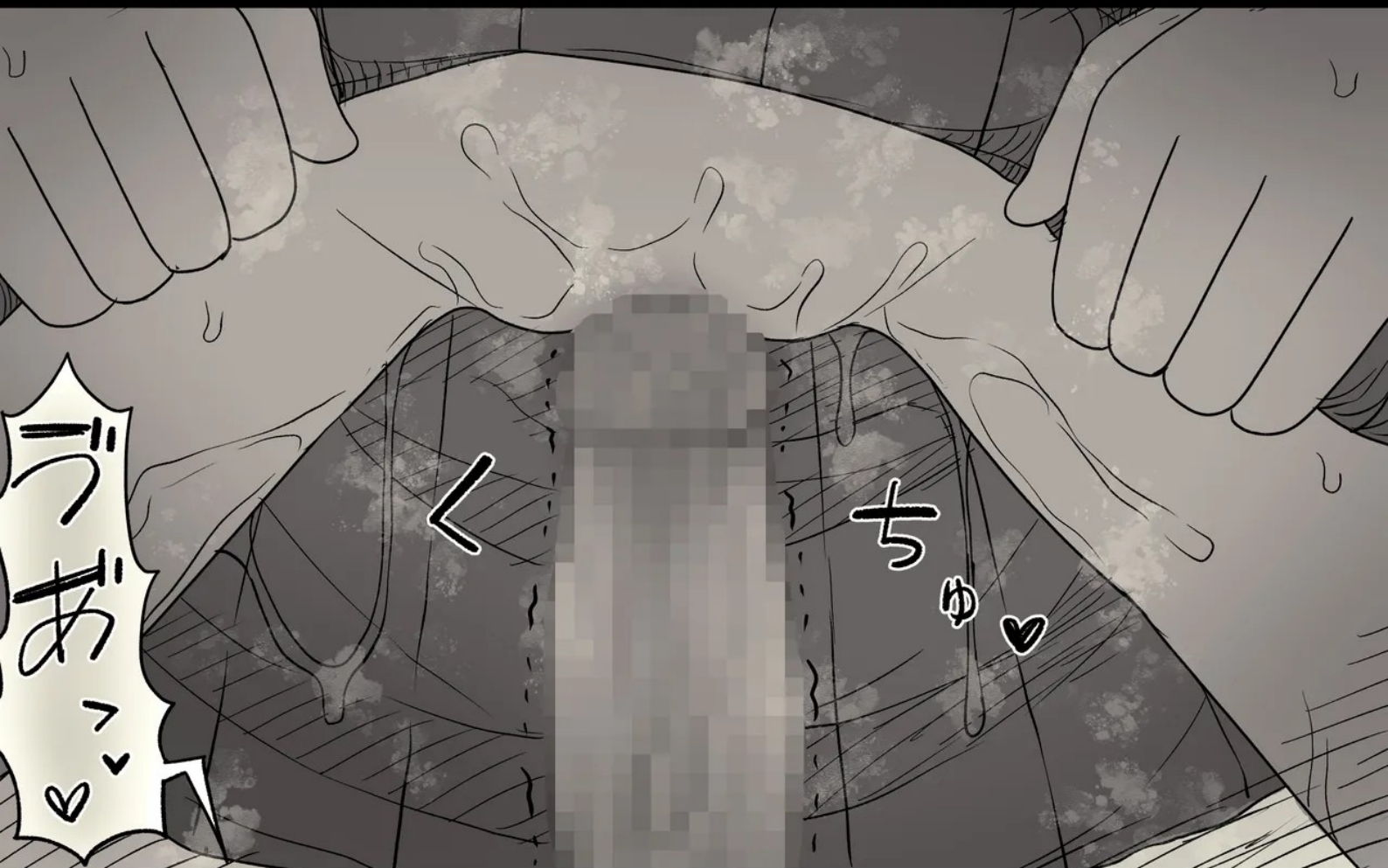
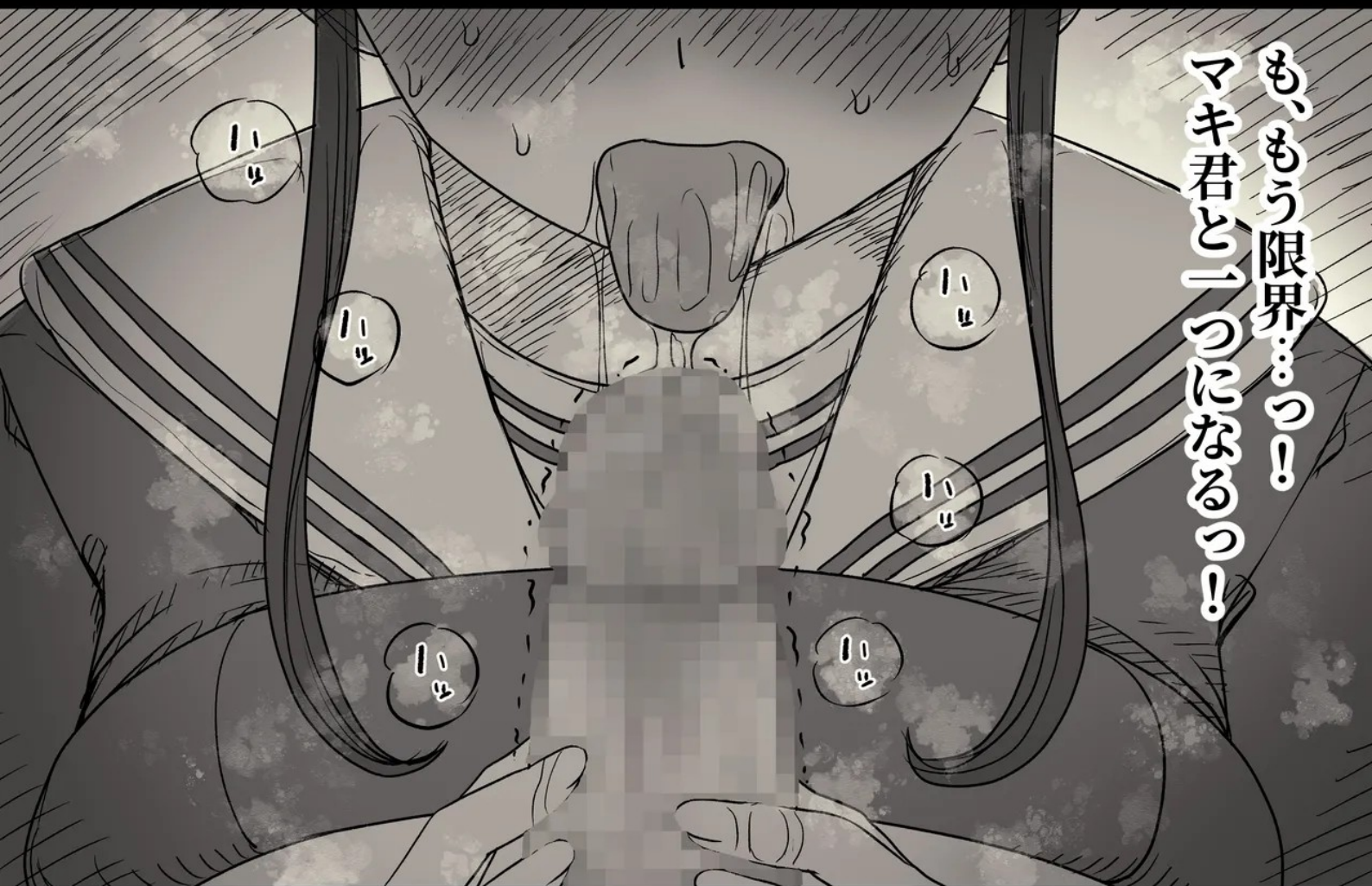
キュン  
キュン  
キュン  
キュン  
キュン  
キュン  
キュン  
キュン  
キュン  
キュン

ブル  
ブル  
ブル  
ブル  
ブル  
ブル  
ブル  
ブル  
ブル  
ブル

ブル  
ブル  
ブル  
ブル  
ブル  
ブル  
ブル  
ブル  
ブル  
ブル



も、もう限界……っ！  
マキ君と一つになるっ！



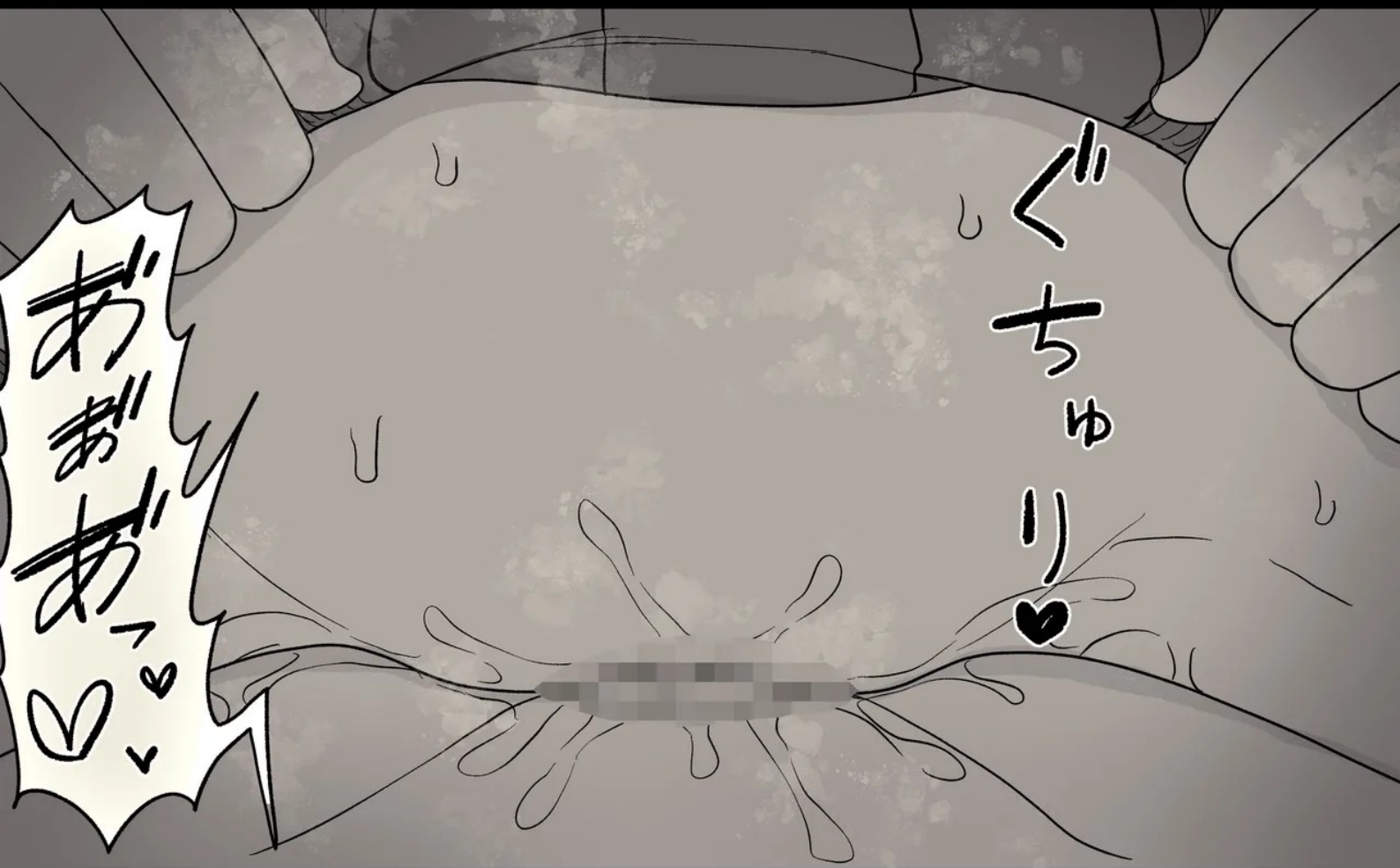
うおおっ♡

く

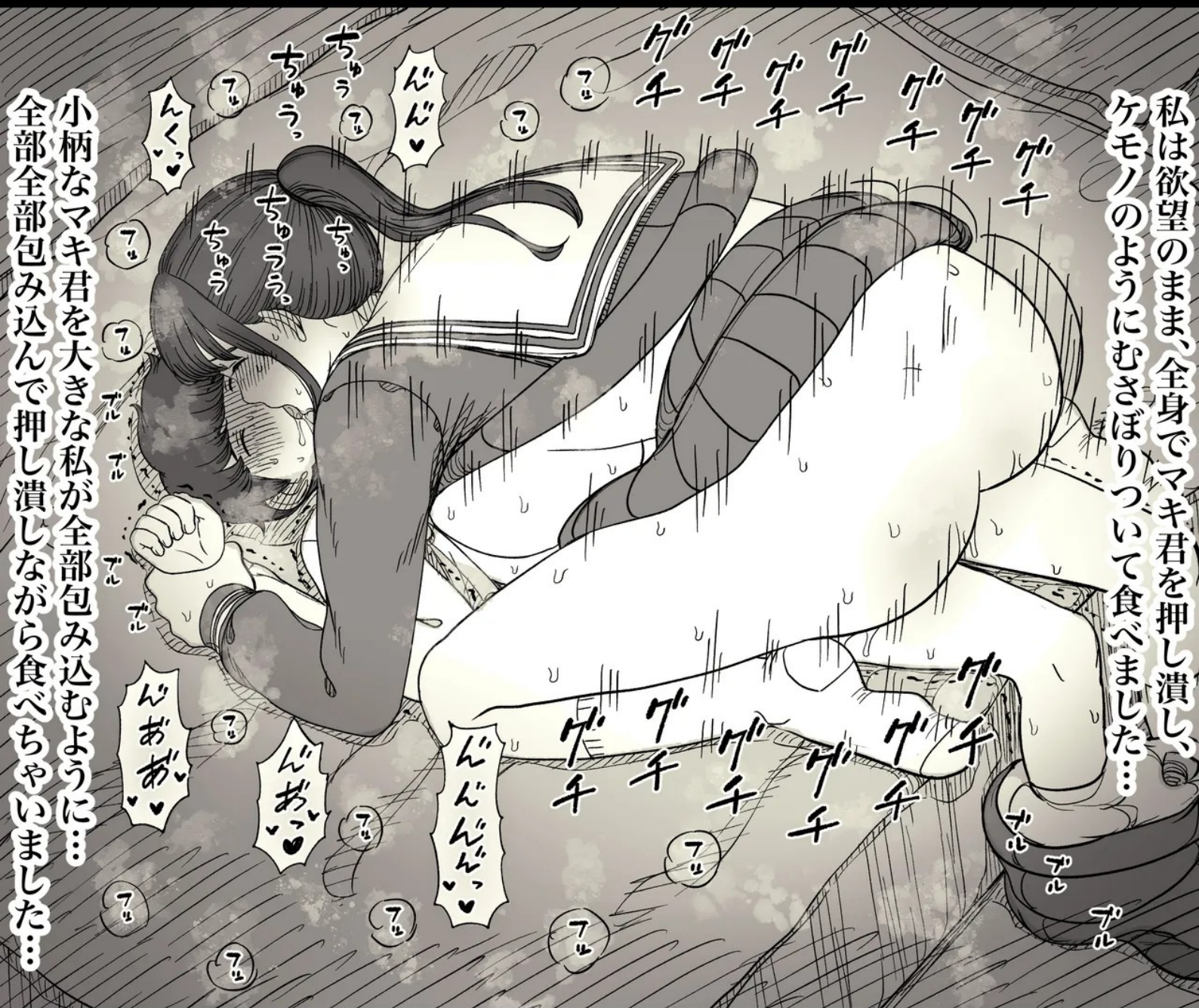
ちゅ♡

♡





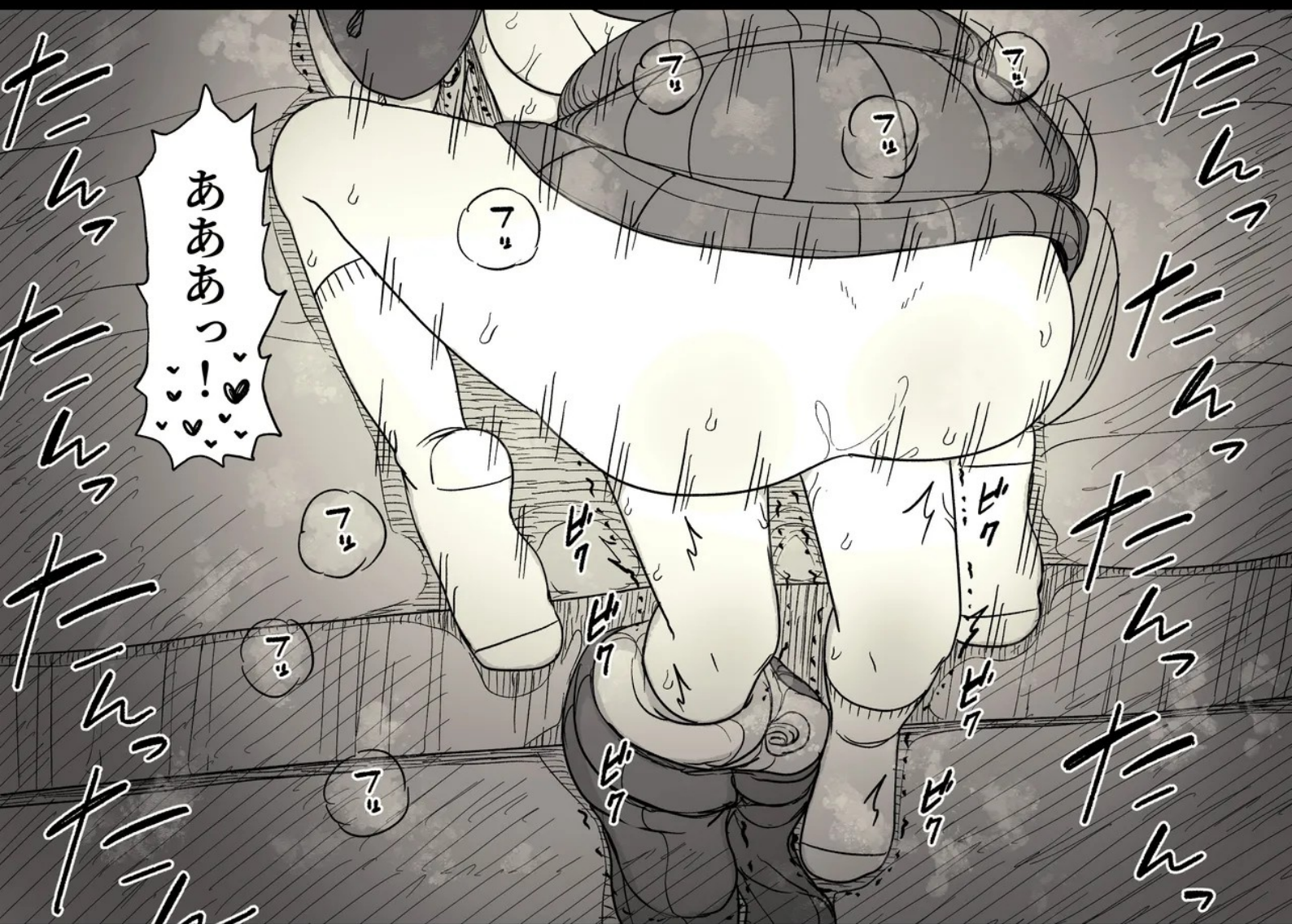
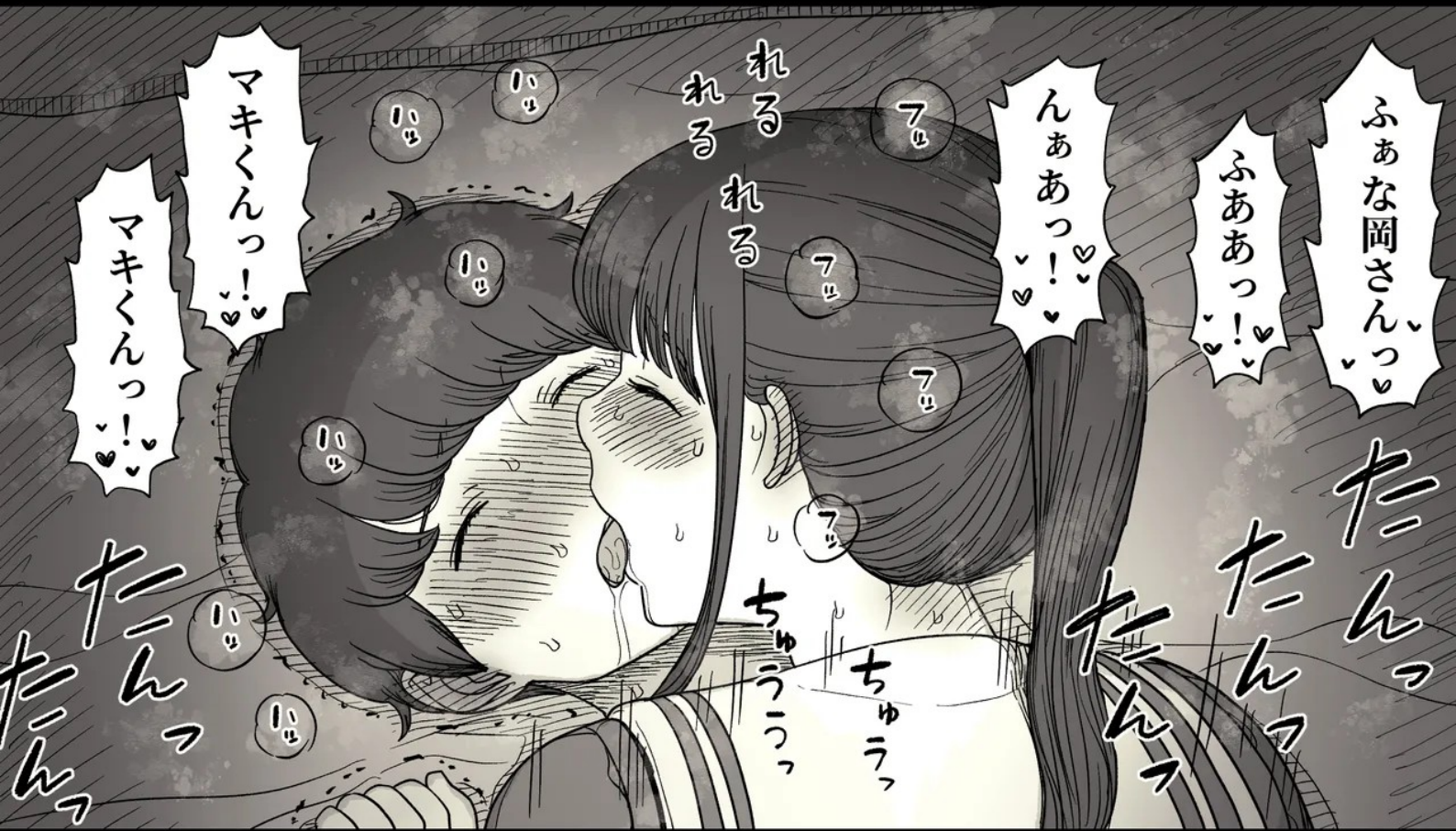




私は欲望のまま、全身でマキ君を押し潰し、  
ケモノのようにむさぼりついて食べました...

小柄なマキ君を大きな私が全部包み込むように...  
全部全部包み込んで押し潰しながら食べちゃいました...









ああダメっ！  
またイっちゃうっ！

すぐ出ちやうっ！

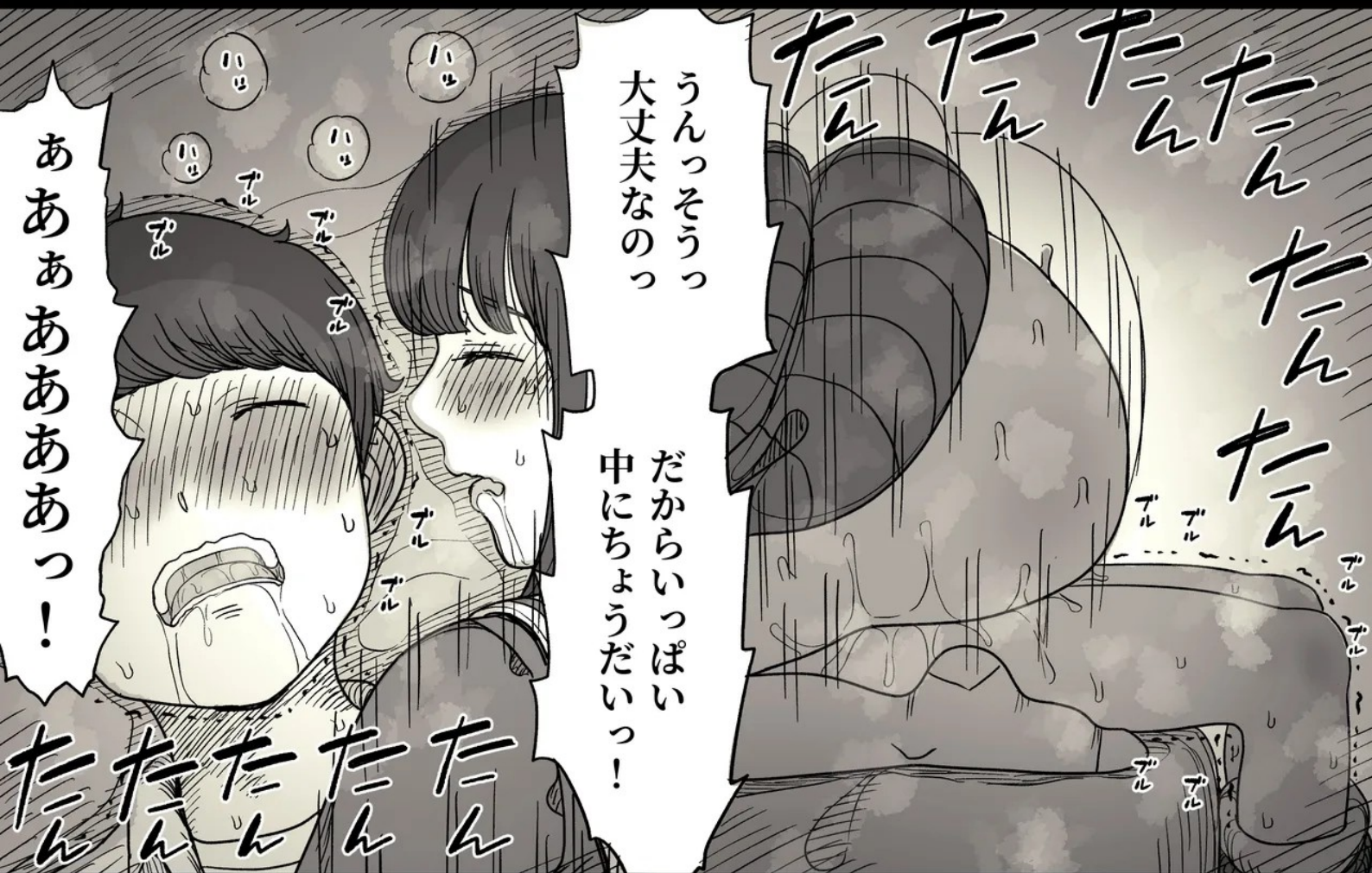
出ちやうっ！

ダメっ！  
止めてえっ！

花岡さんの  
中に出しちやうっ！

子供できちやうっ！

















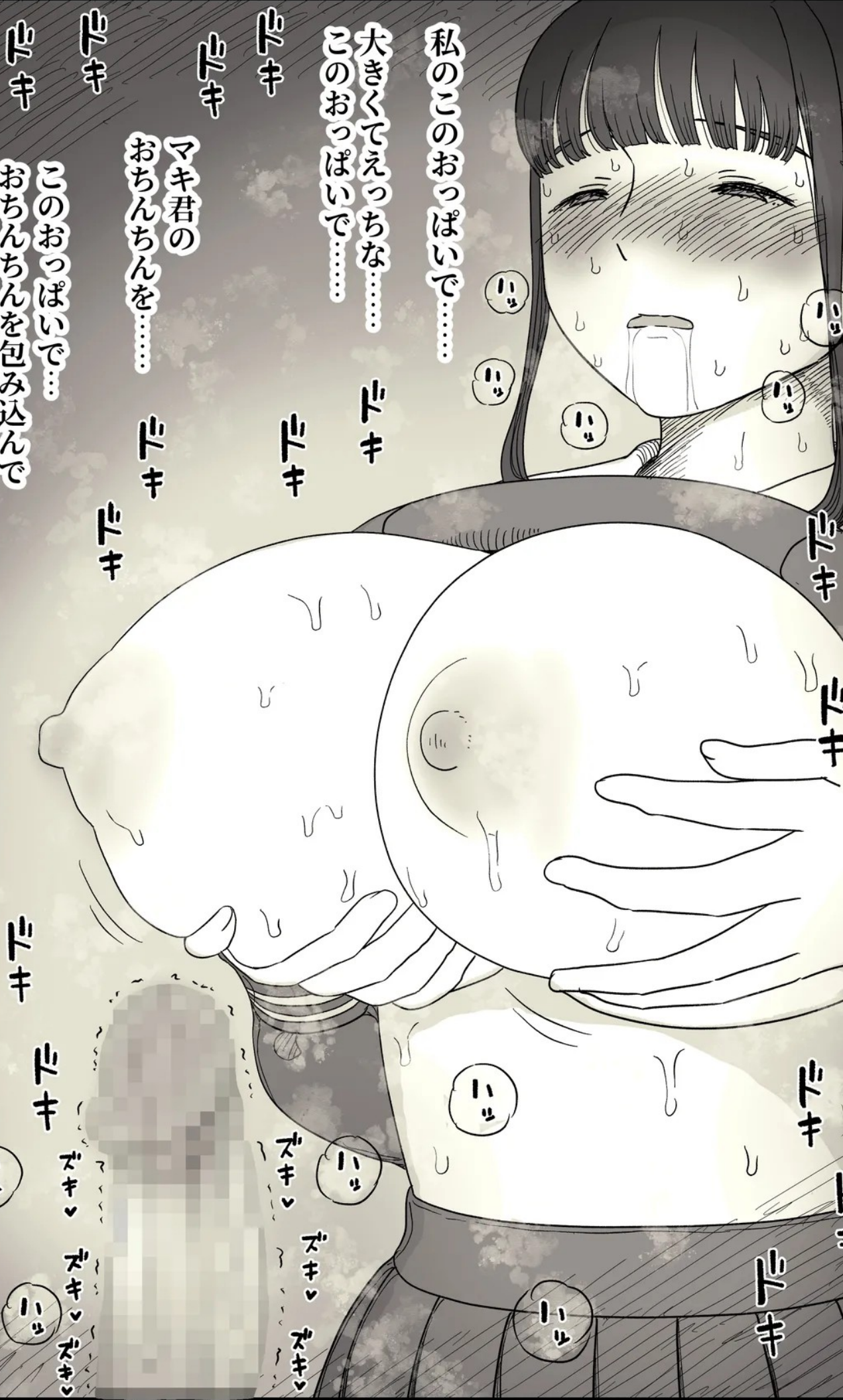


私のこのおっぱいで……

大きくてえっちな……  
このおっぱいで……

マキ君の  
おちんちんを……

このおっぱいで……  
おちんちんを包み込んで  
しごいたら……  
マキ君どうなっちゃうんだろう……

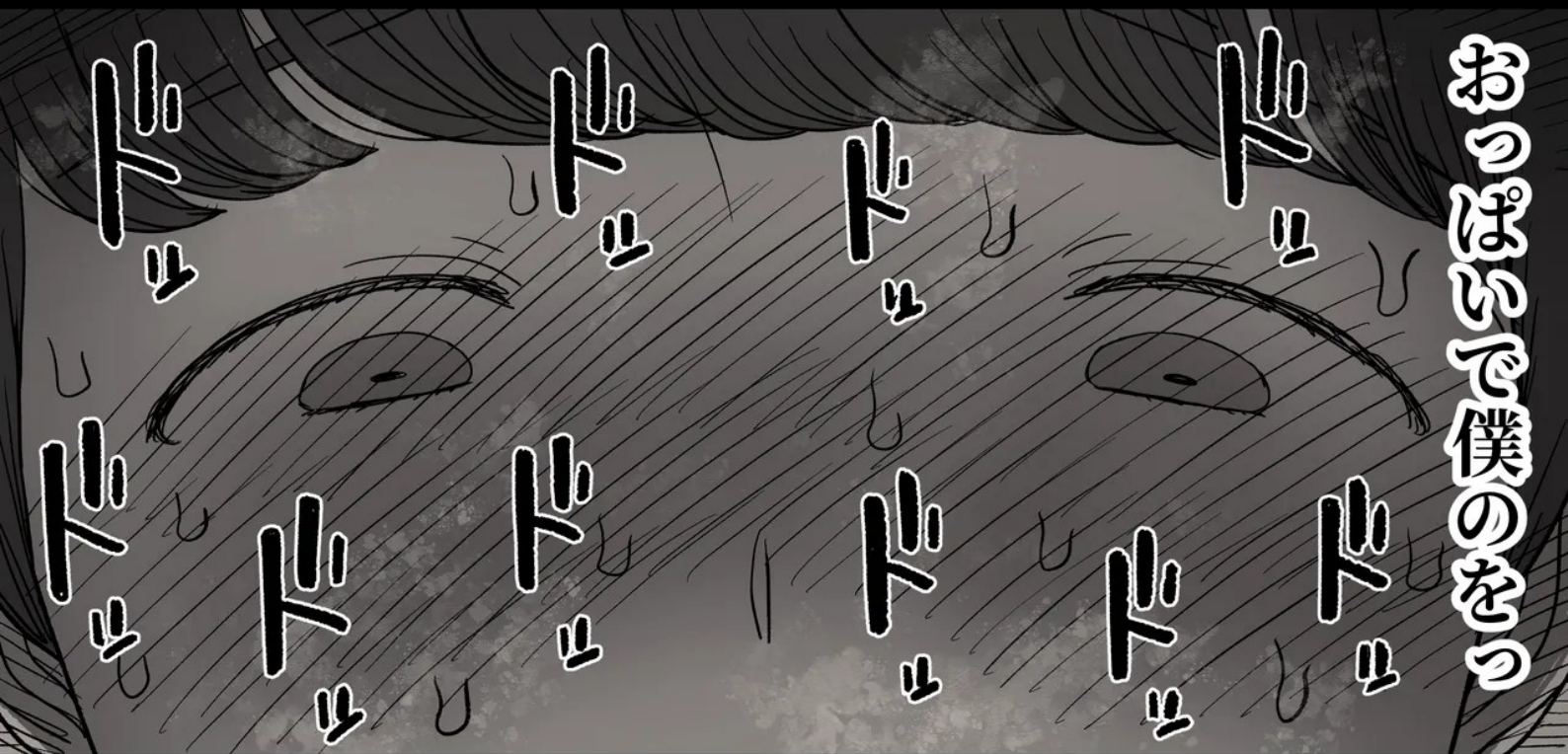




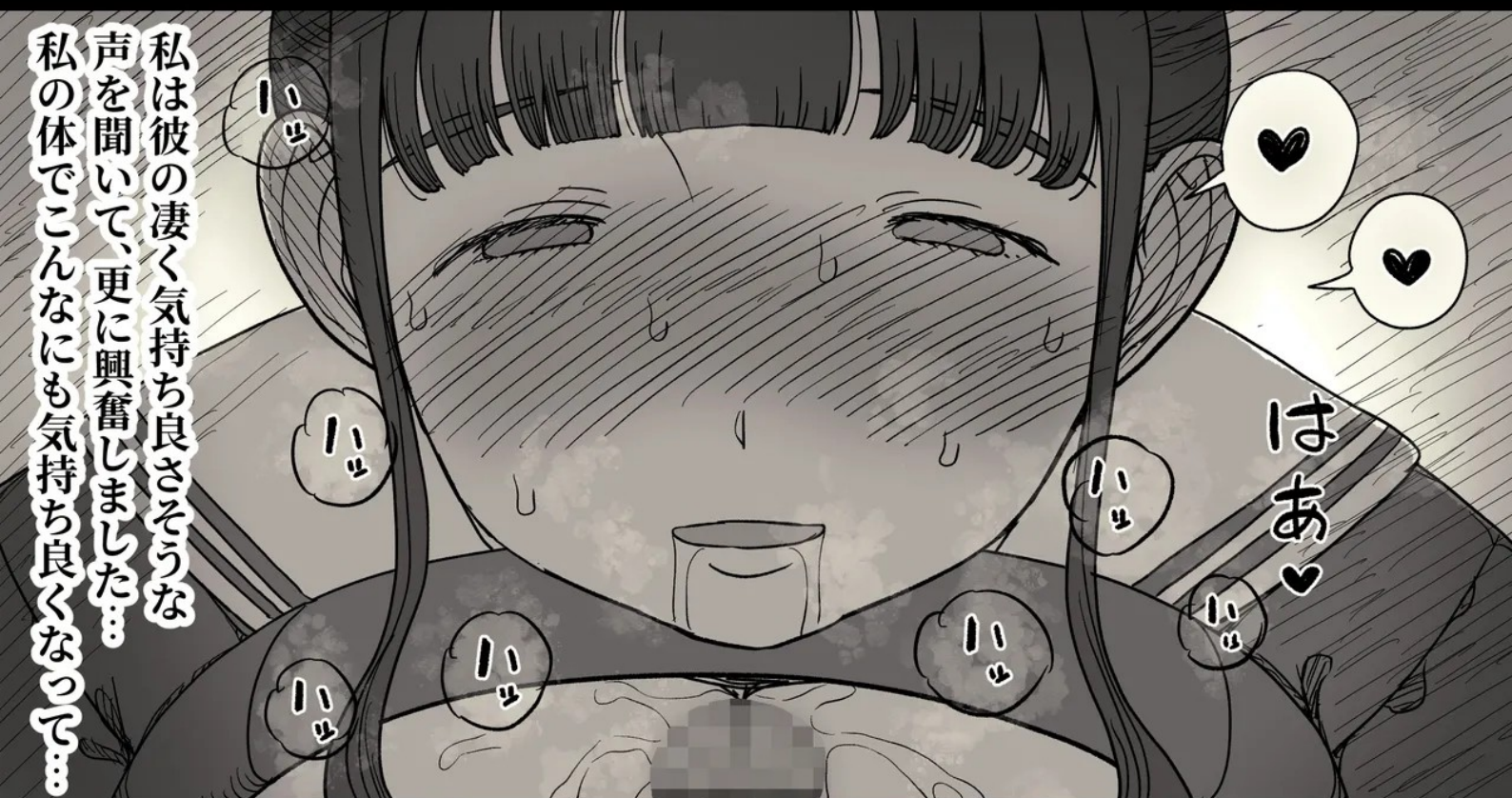
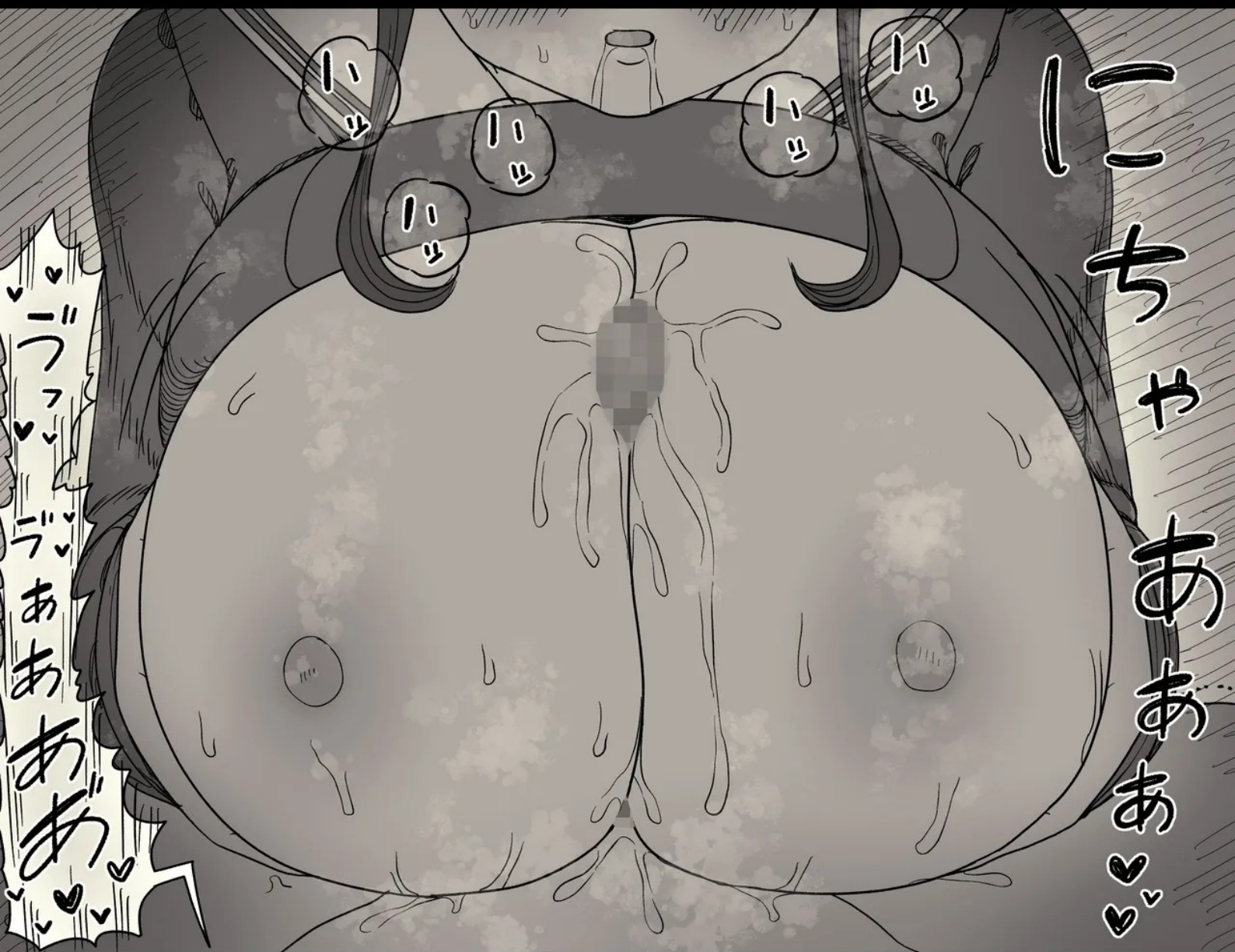
は、花岡さんの……  
おつきい  
おっぱいが……



おっぱいで僕のをつ







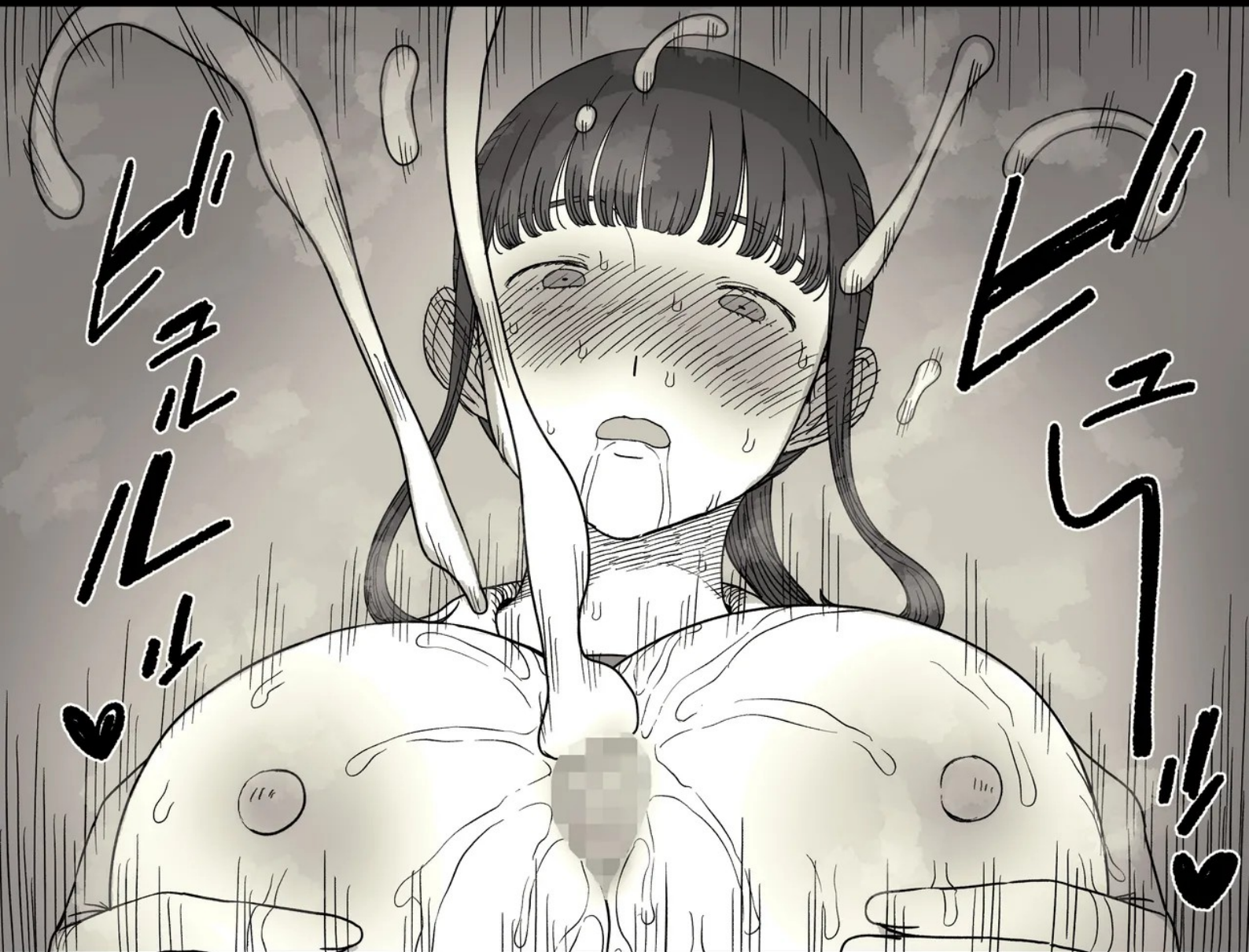
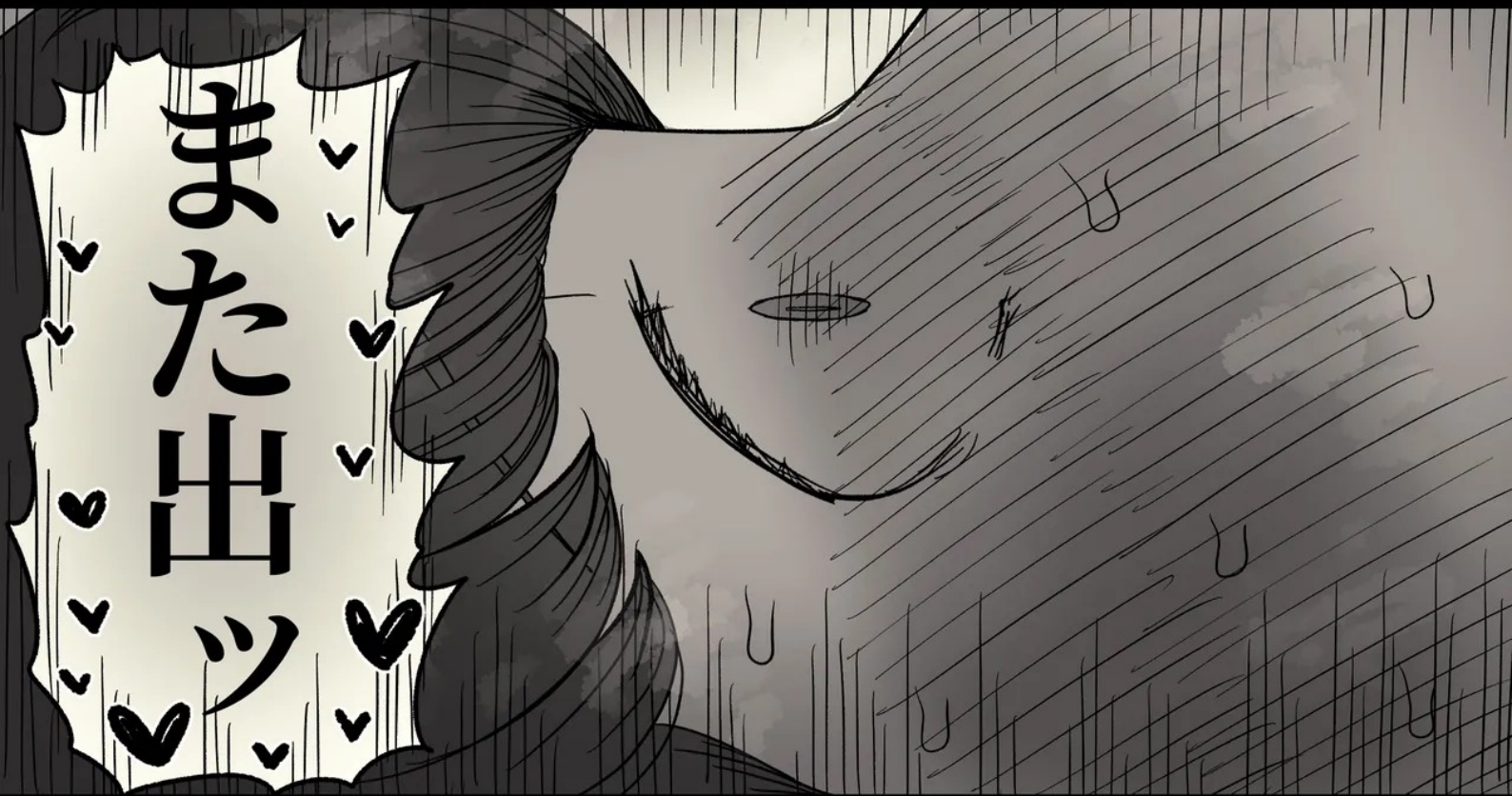




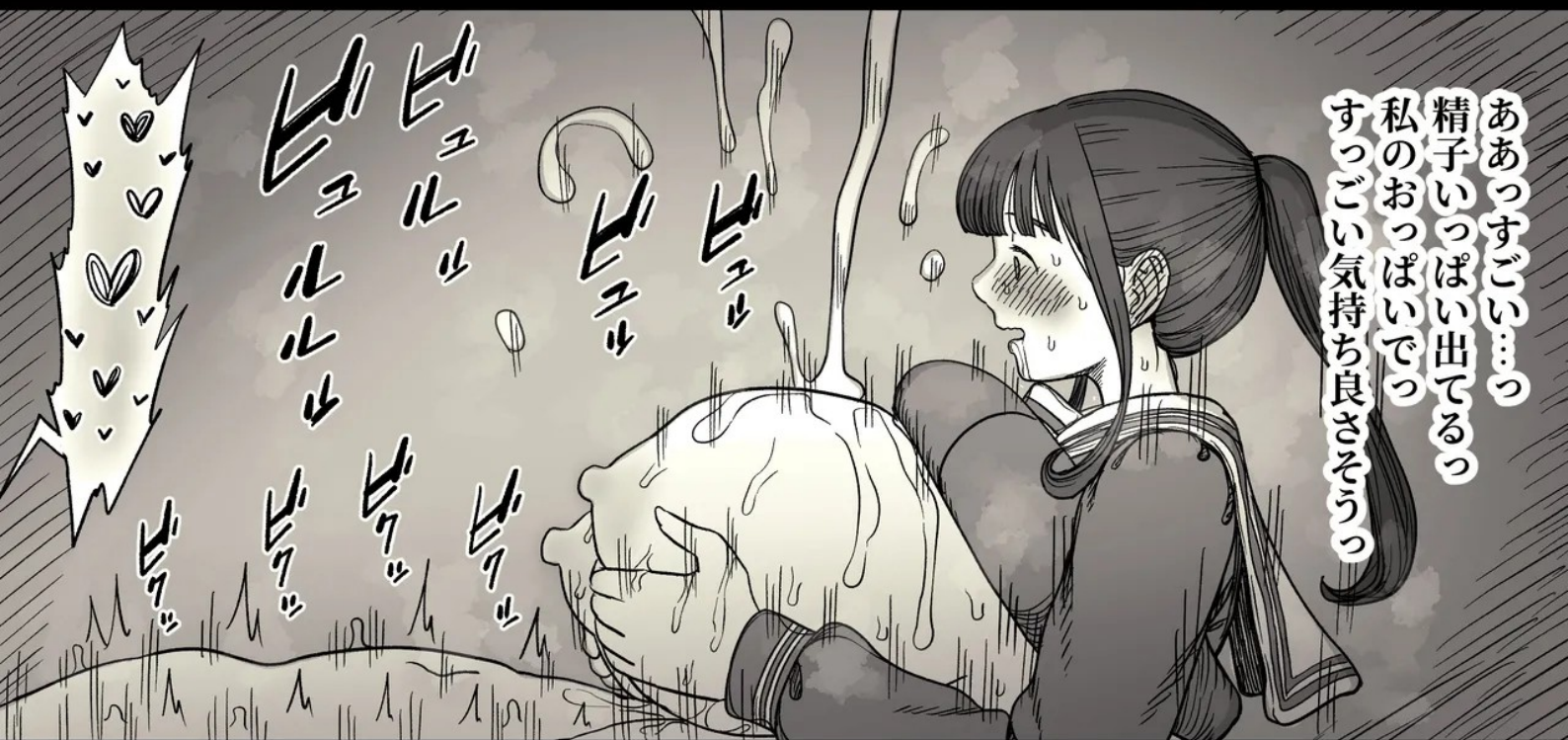




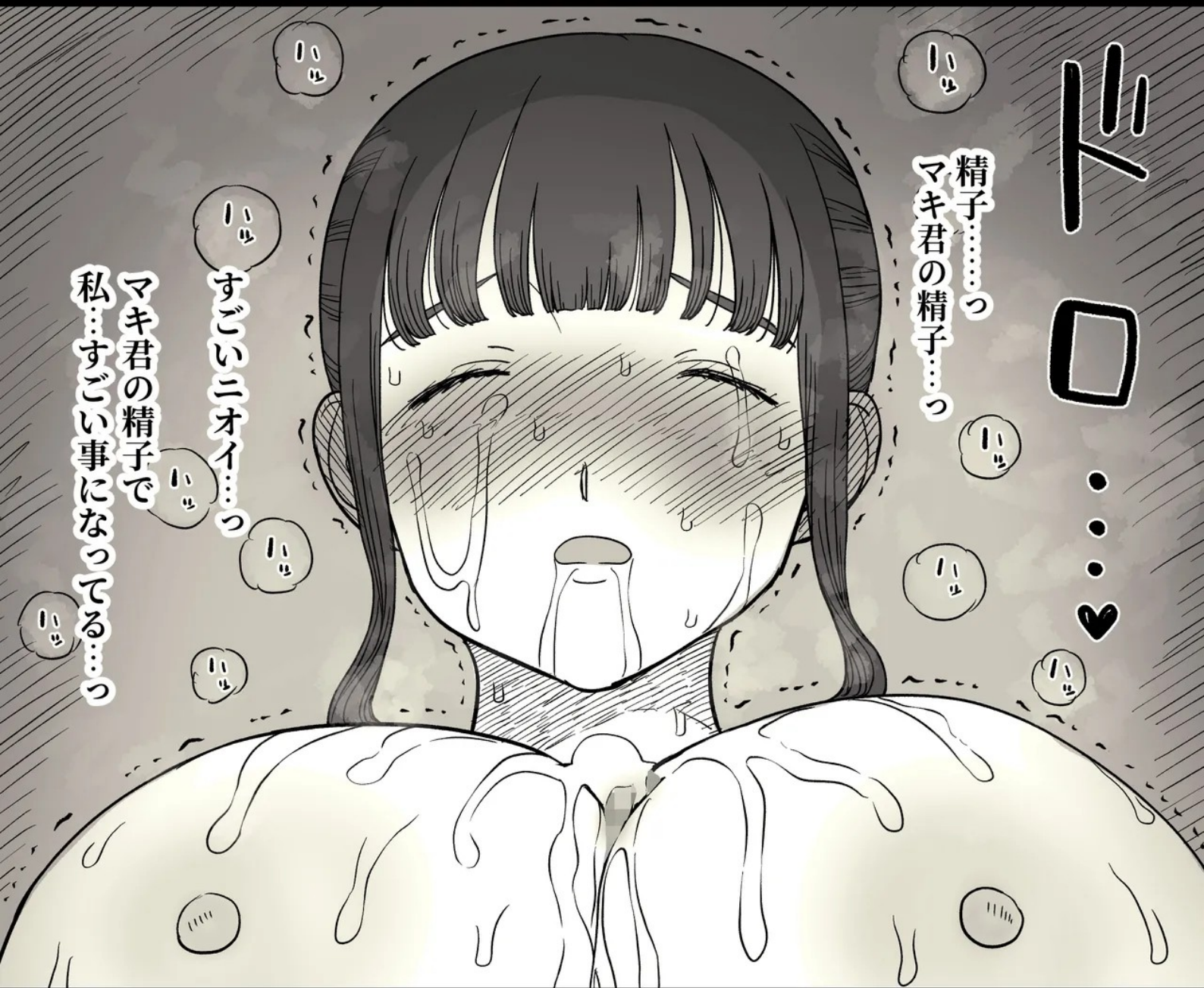








ああっすごい…っ  
精子いっぱい出てるっ  
私のおっぱいでっ  
すごい気持ち良さそうっ



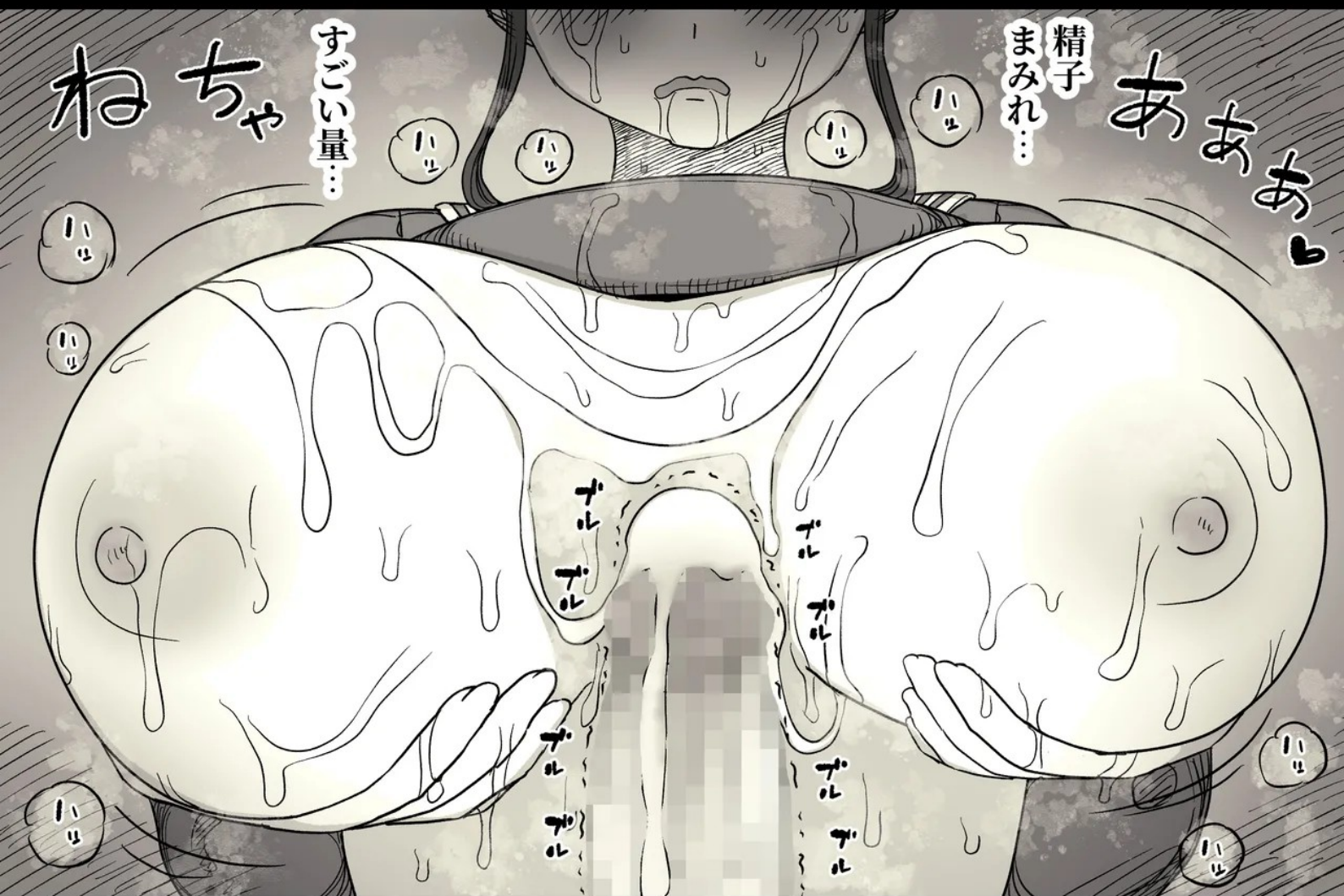
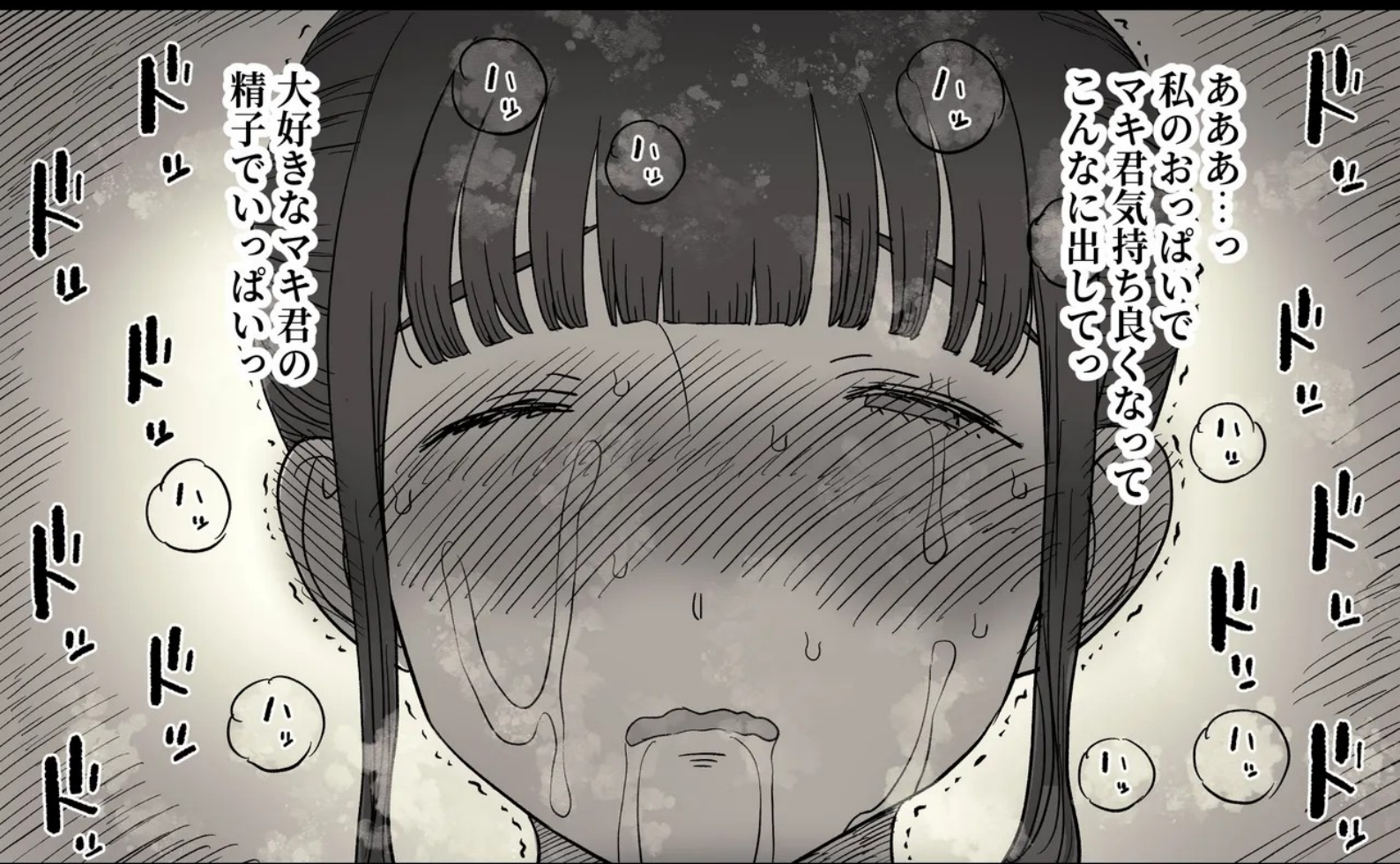
ド  
ロ  
…  
♡

精子…っ  
マキ君の精子…っ

マキ君の精子で  
私…すごい事になってる…っ

すごいニオイ…っ





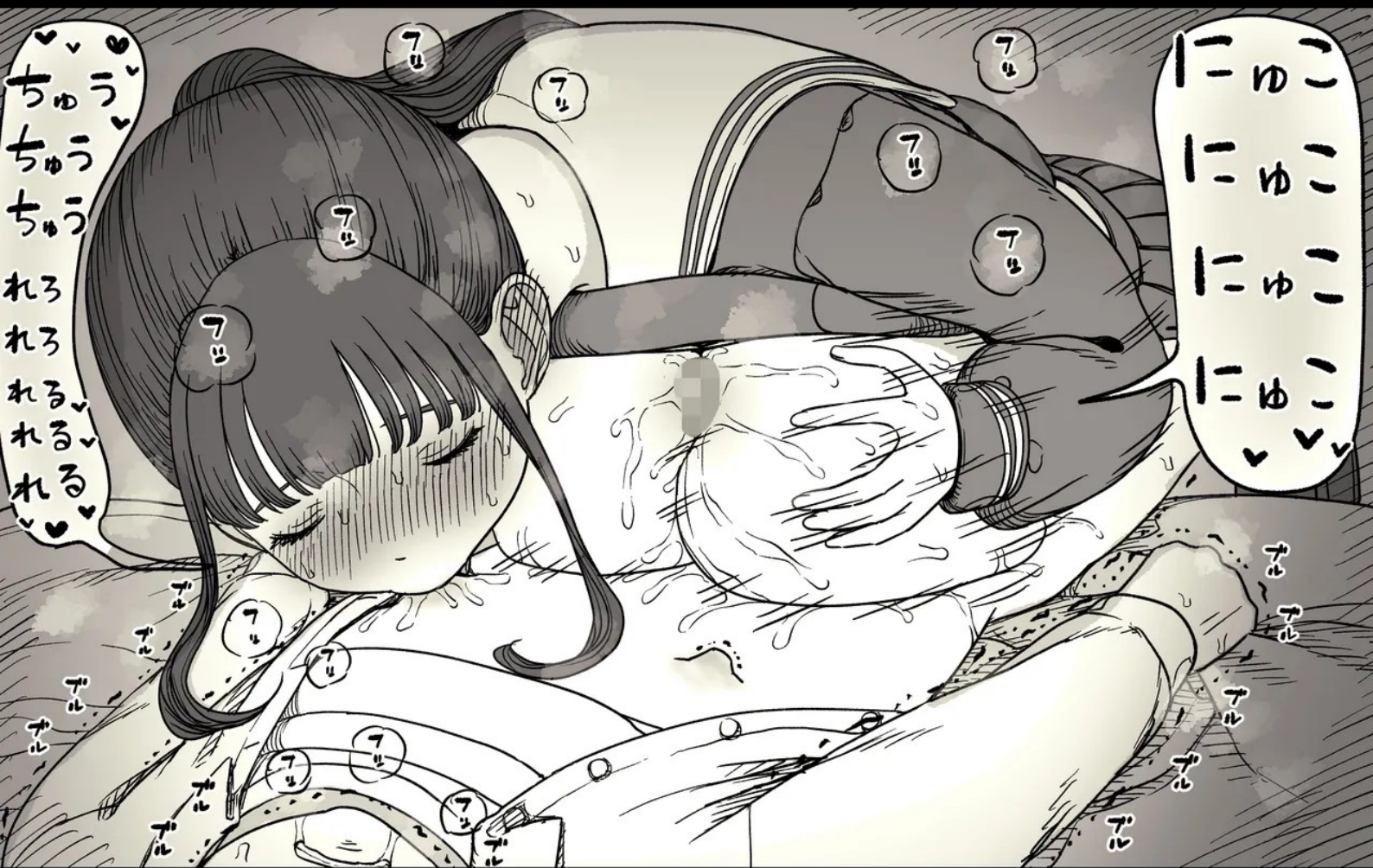














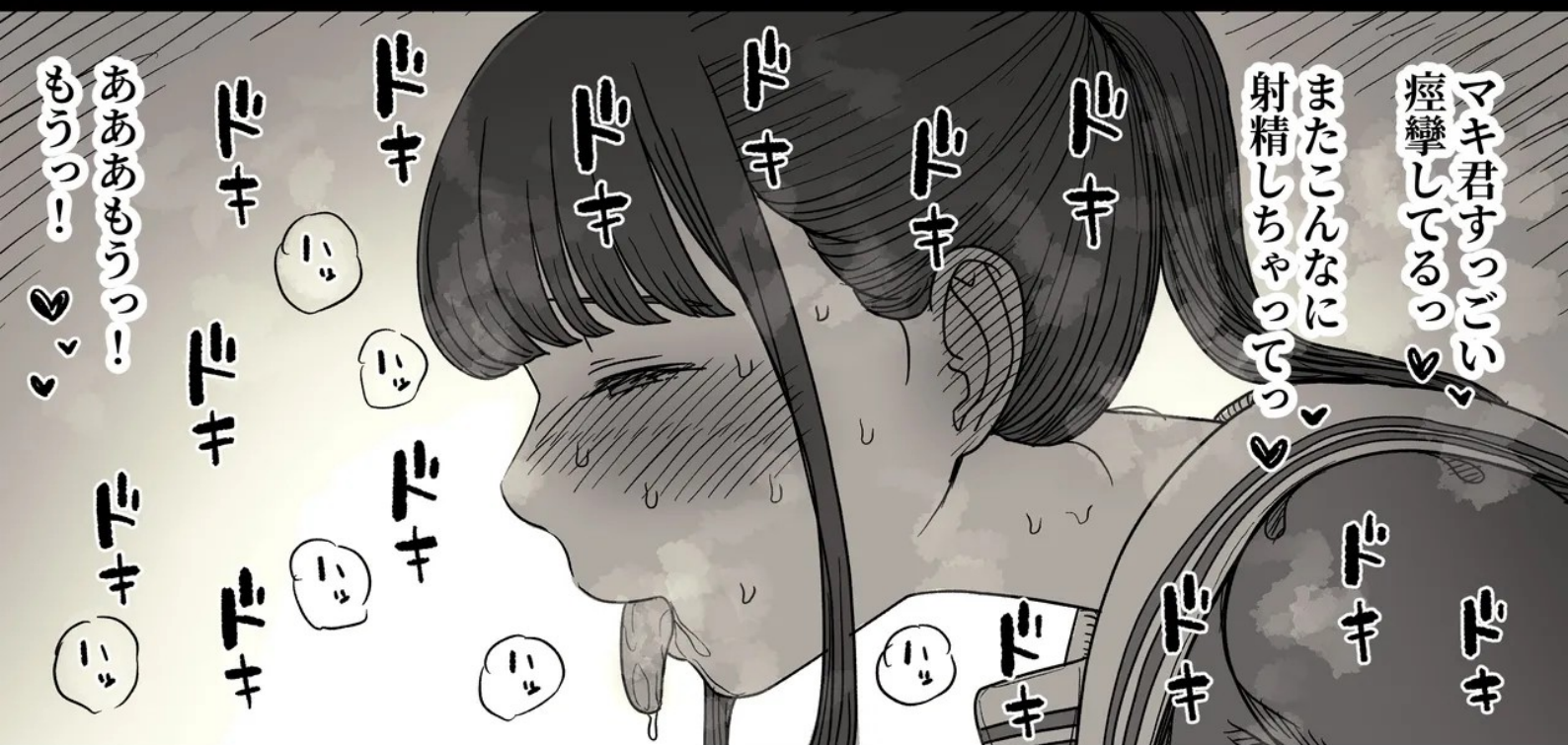
こんな事されたらっ！



またいつちやうっ！  
すぐいつちやうっ！



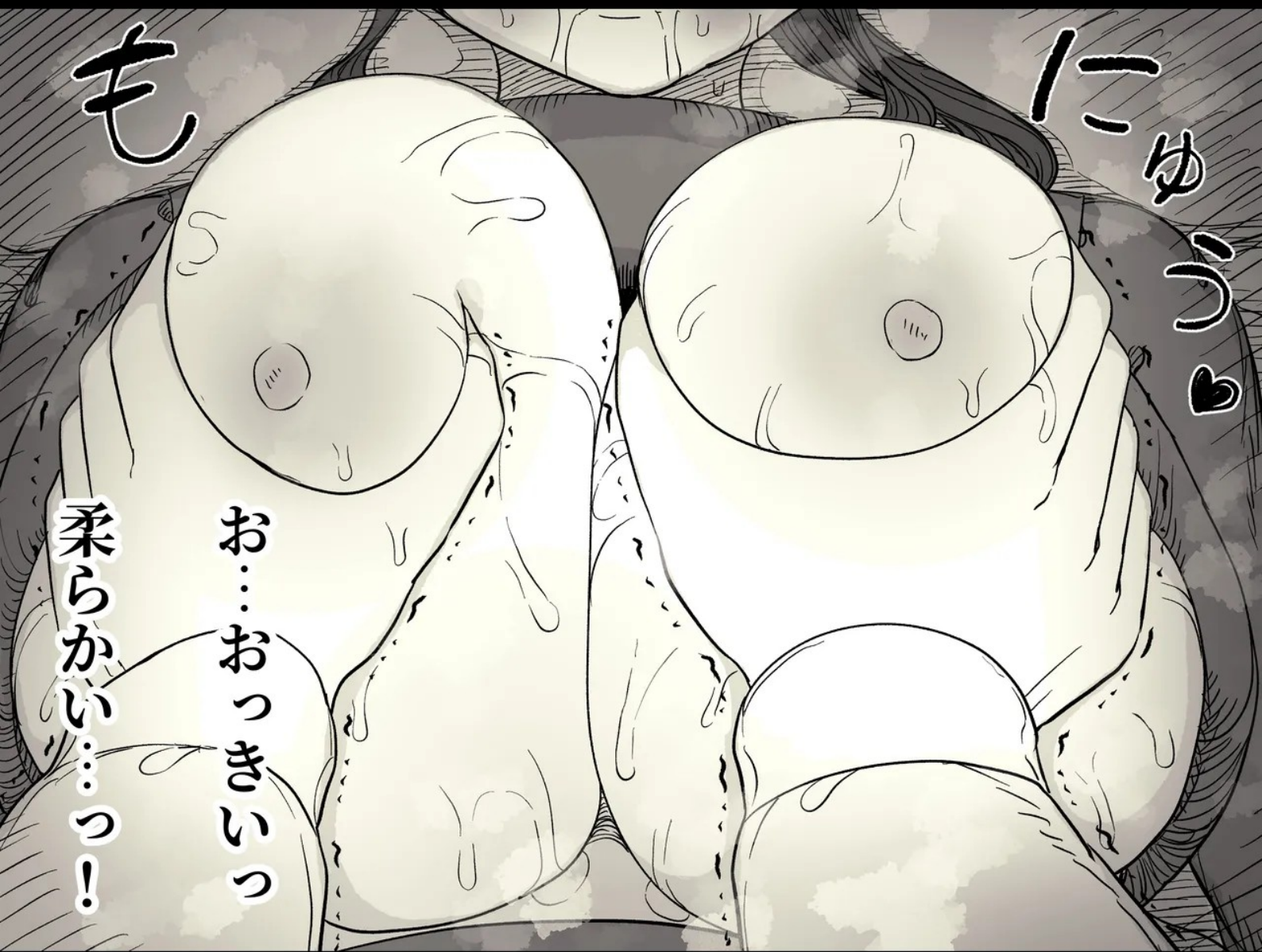














私のおっぱい、  
食べて…♡

あああああ…

もちゅう♡

すごいっ  
すごいっ

おっぱい  
食べてるっ  
美味しいっ

柔らかいっ！



ああああああああああ

マキ君っ！

好きっ！

好きっ！

好きっ！

好きっ！

んふっふっふっ

ぎゅ

う

う

す  
3.0

はははははははははは  
ちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅ

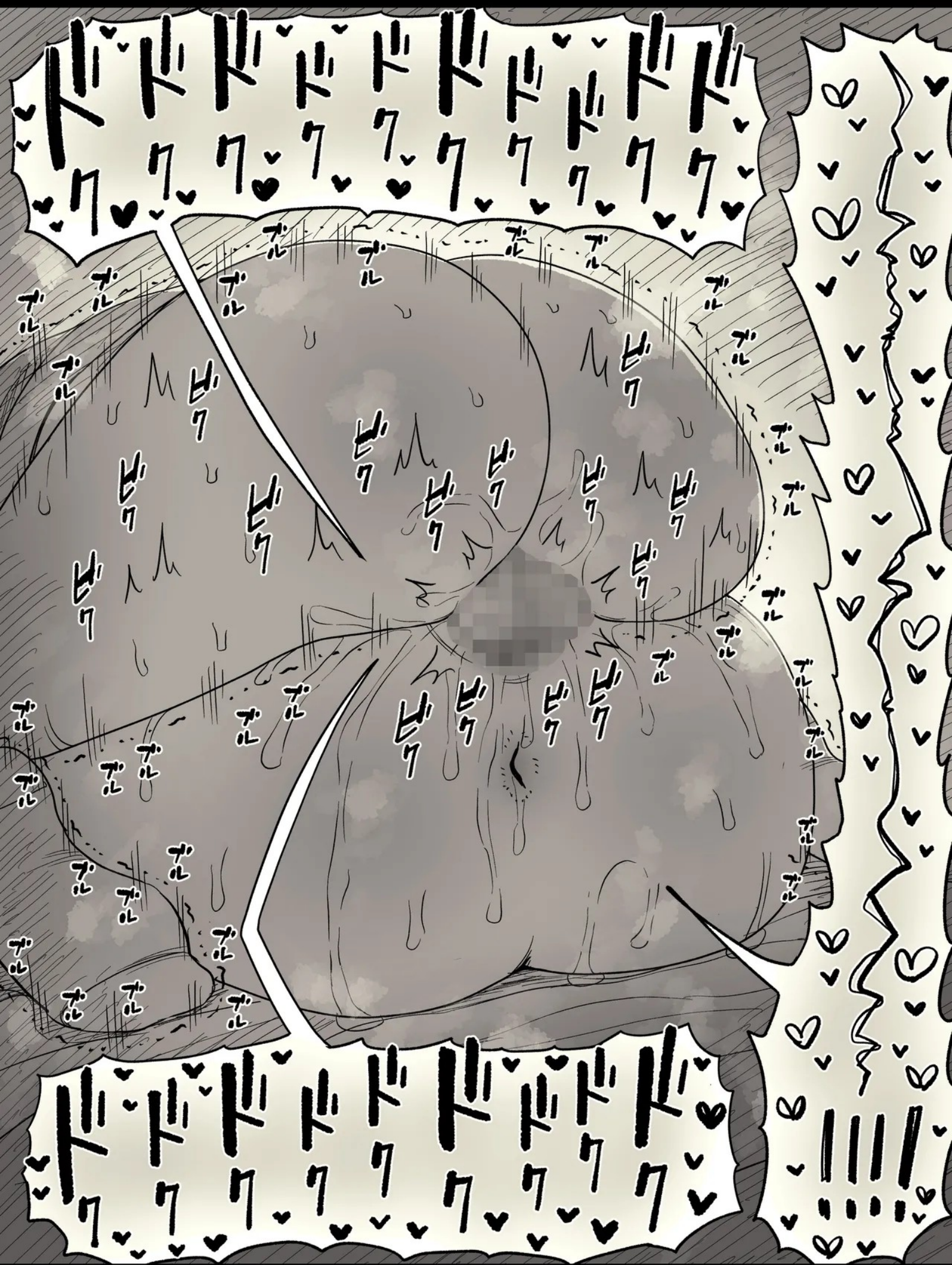




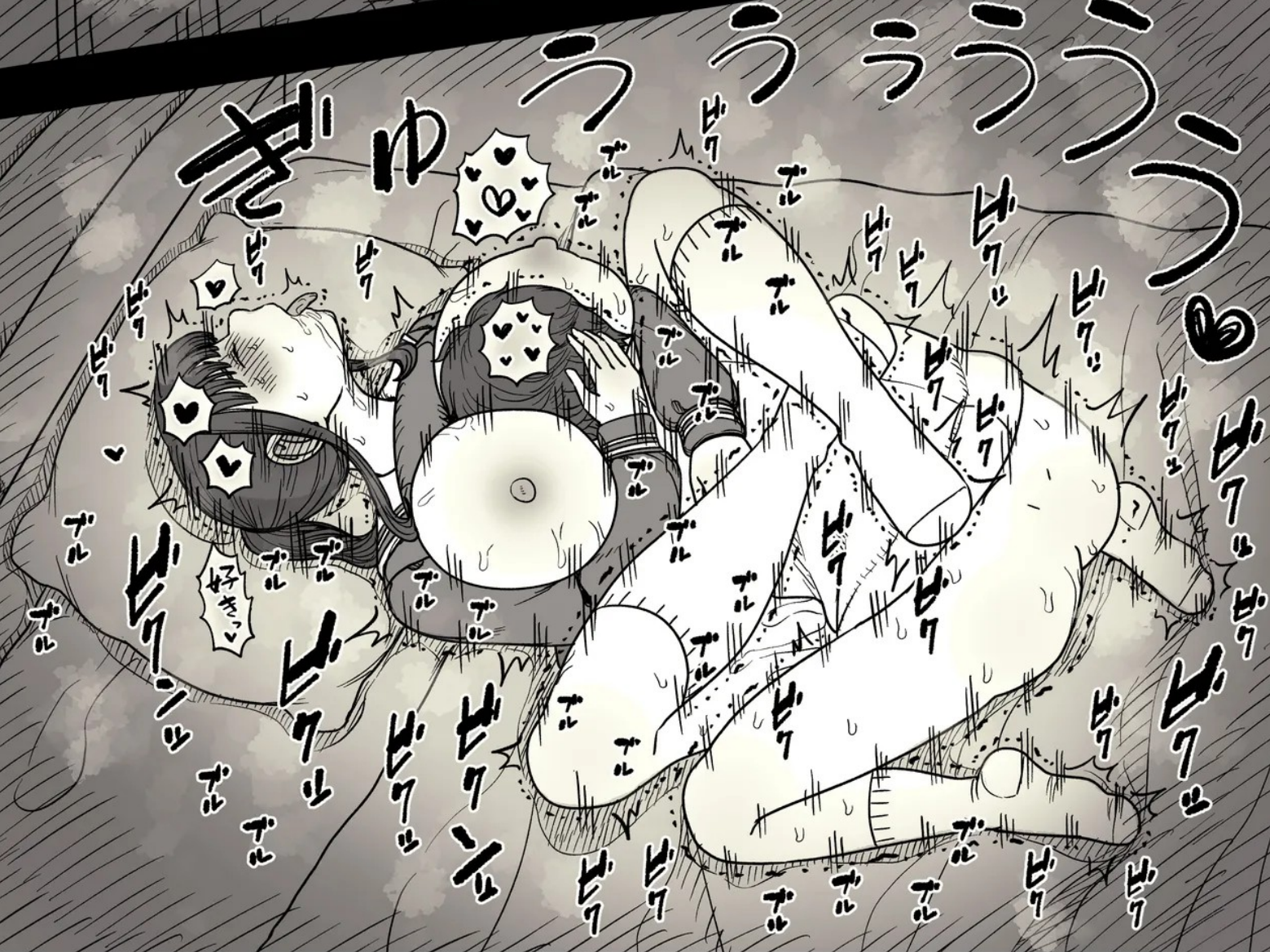
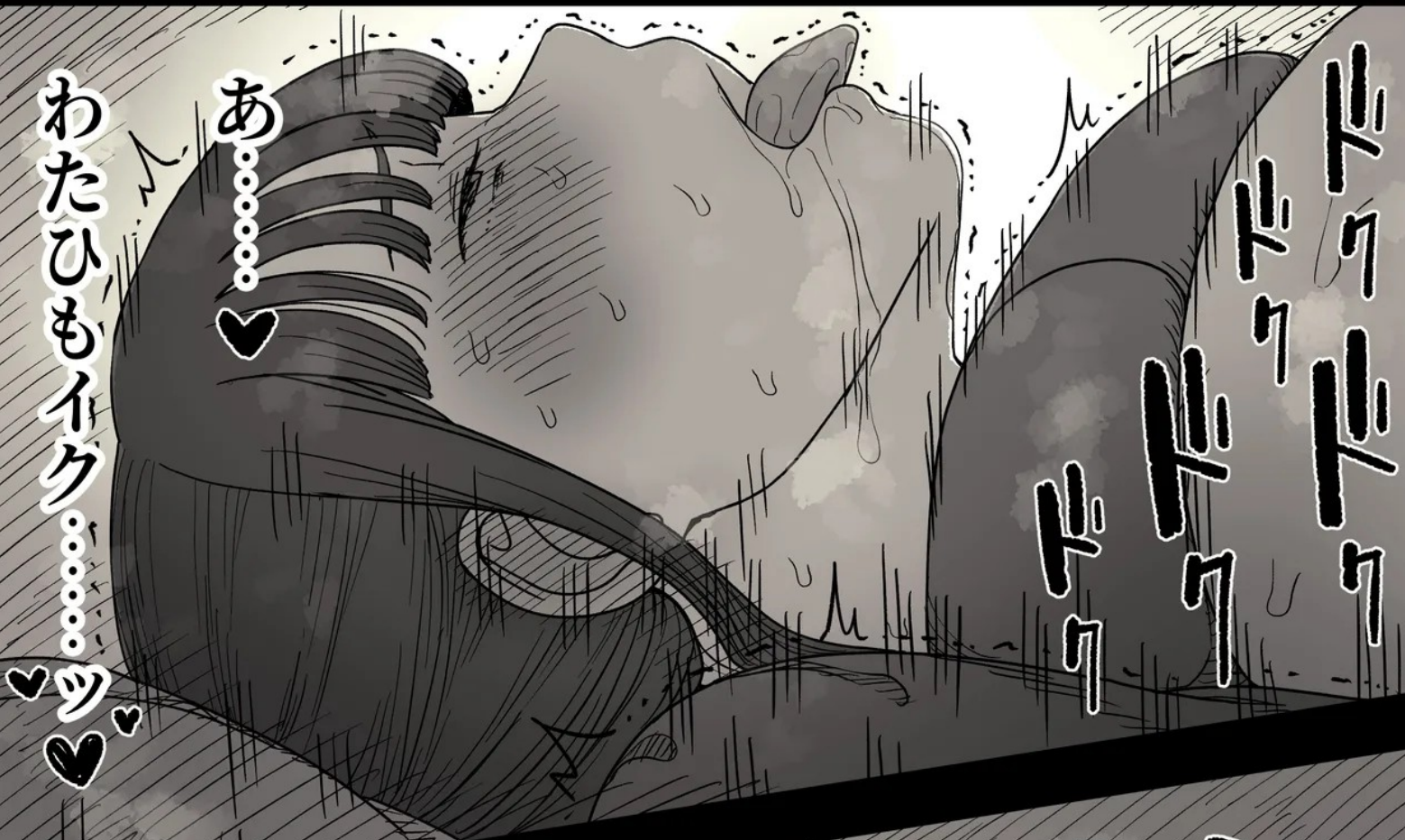




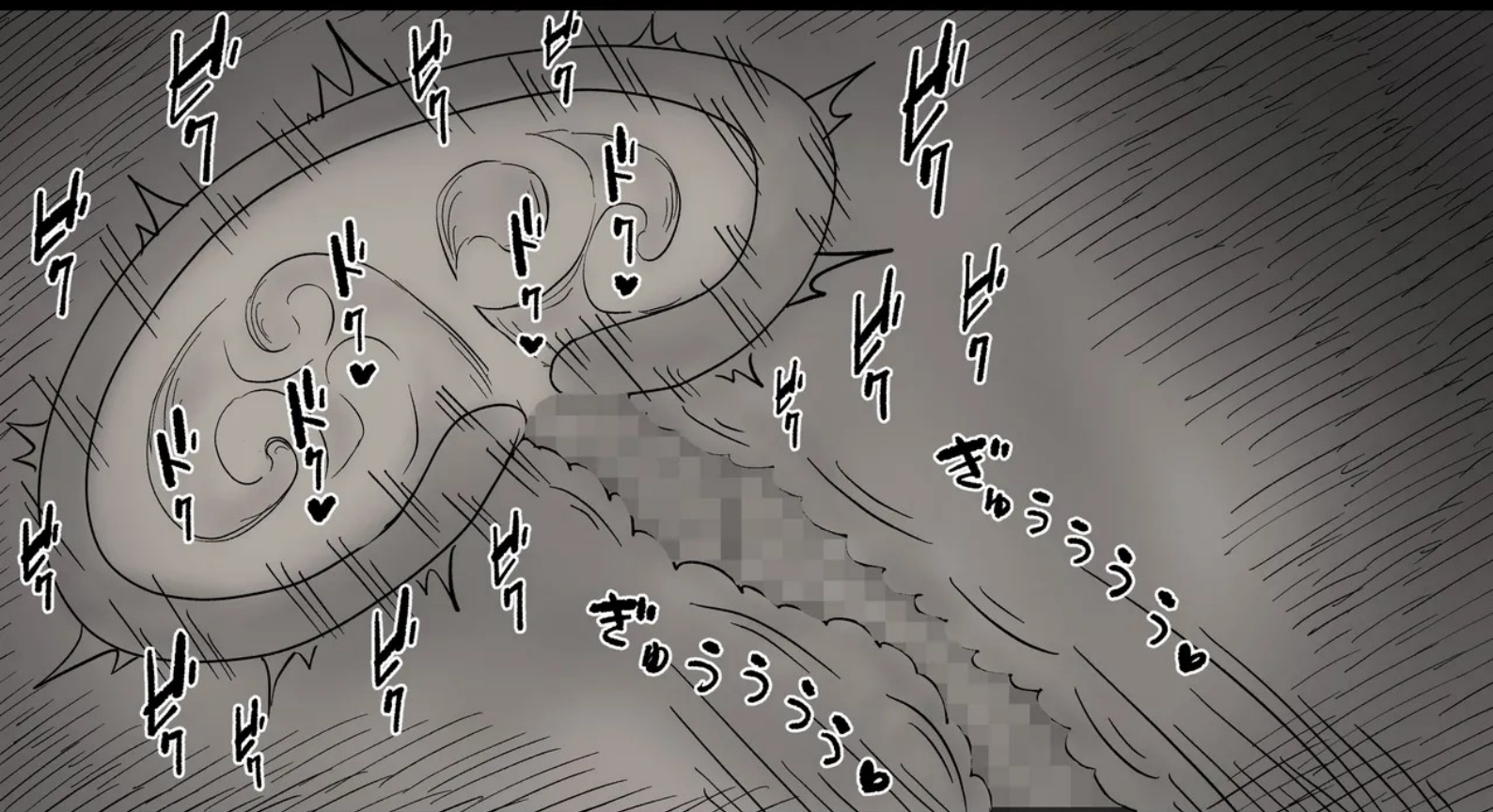




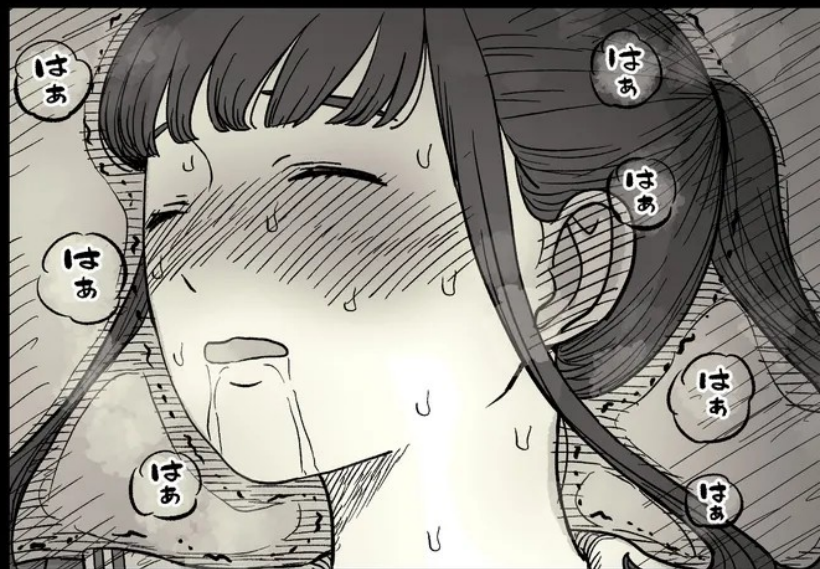
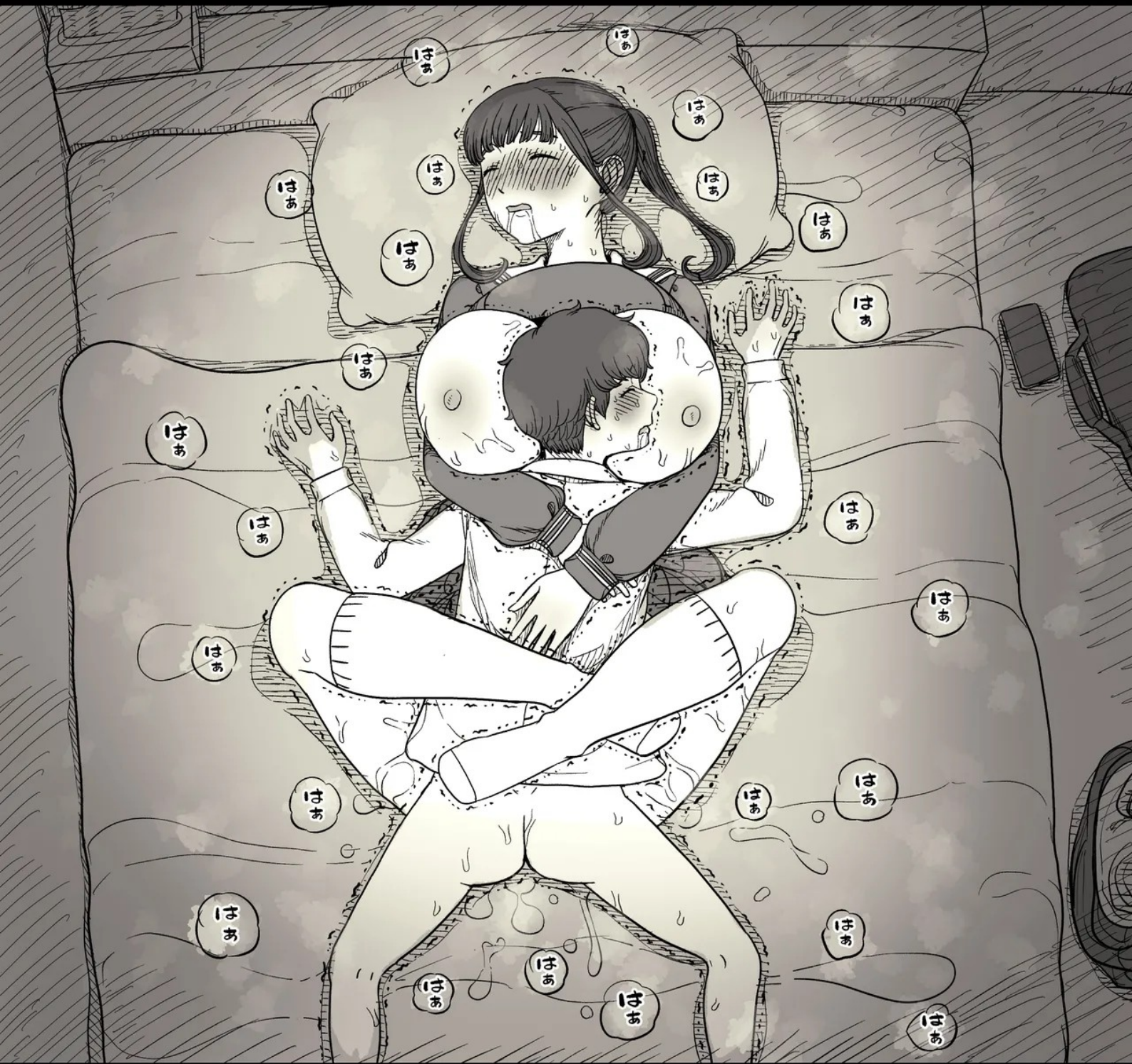




















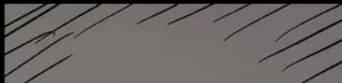
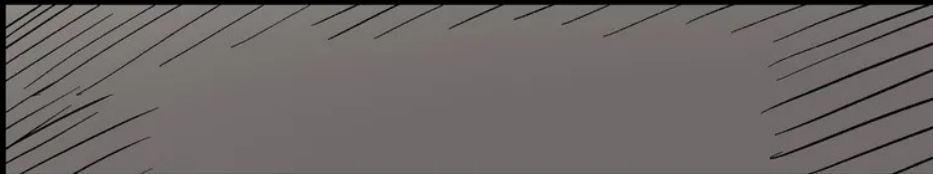






う、  
うんっ

また明日ね…っ





はあ……♡







マキ君と  
シちゃったあ…♡

ドキ  
ドキ  
ドキ  
ドキ

ドキ  
ドキ

ドキ

すっごく  
すっごく  
すっごく  
可愛かったあ…♡



ううう……

ムラムラが  
止まらないよう……

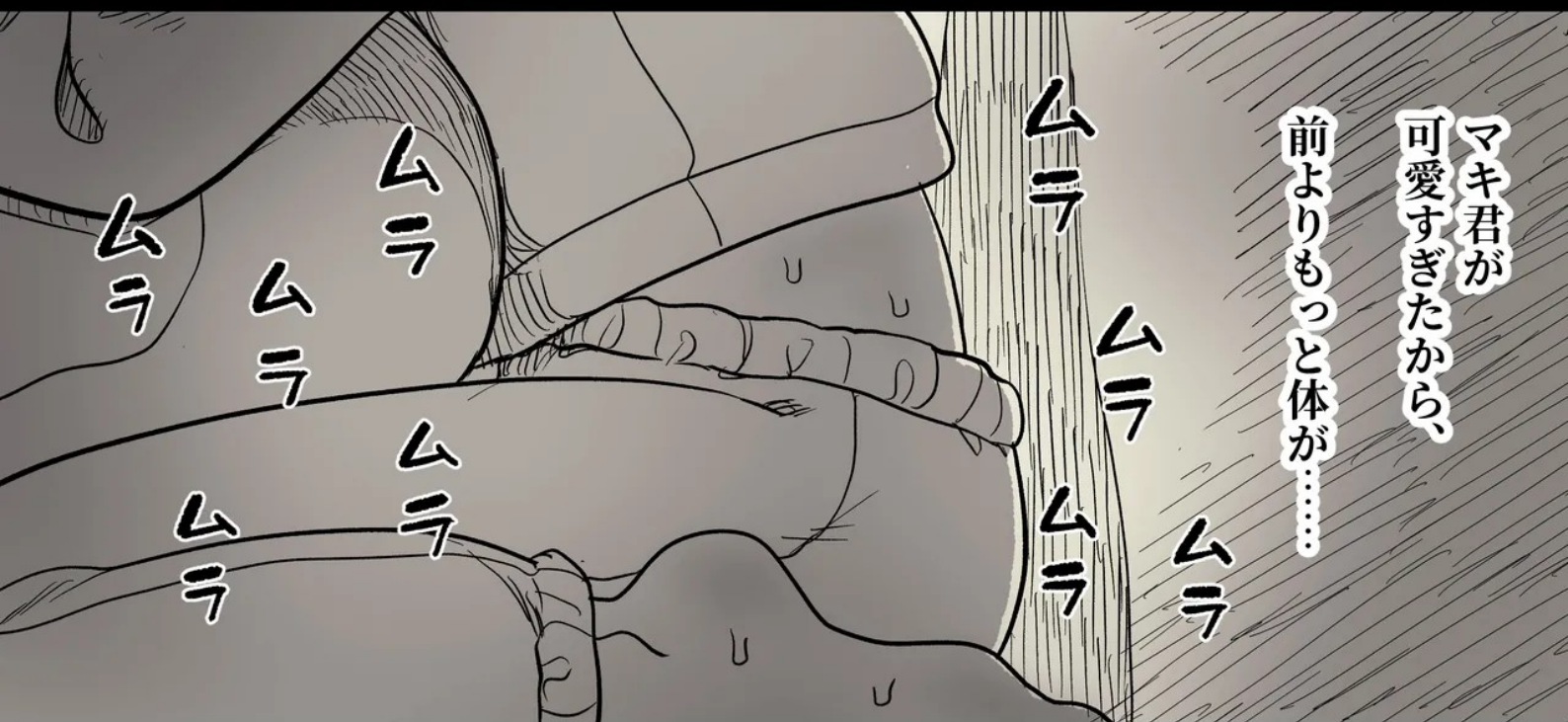
ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

あんなにさつき  
シたのに……



マキ君が  
可愛すぎたから、  
前よりもっと体が……

ムラ  
ムラ  
ムラ  
ムラ

ムラ

ムラ

ムラ

ムラ

ムラ



うーん…？

そういえば結局、  
ちゃんと告白の返事  
言ってもらえ無かったけど…

ひ.

私たちって、  
恋人になれたのかなあ…？

まあ、いっか♪

きつとちゃんと  
恋人になってくれるよ。

今日は最高の  
一日だったなあ。

明日もマキ君、

襲っちゃお…



こうして私は、意中の男子と一つになる事ができました。

ちゃんと恋人になれたのか分からなかったけれど、

でも、やっと出会えた私好みの異性…

私は、このとっても幸せで刺激的な一日を経て、  
彼に私の事をちゃんと好きになって貰いたくて…。

私のこの女として育ちきった体を存分に利用して、  
彼の心をしっかり掴んで離したくないという気持ちを強くしました。

だって、あんなに可愛らしいんだもの。

もっと沢山可愛がって、彼の身も心も虜にしたい。

彼のもっと可愛いところを沢山見たい。

そんな気持ちを私は強くして、

今日もまたマキ君の事を想い、自慰をしながら眠りにつきました…



私が結ばれた彼との……

彼との今後がとってもとっても楽しみだったあの頃の思い出……。







長身女子に食べられる

作：種乃なかみ  
サークル：ひまわりのたね

2025/9/1

メールで感想等頂けると次回作制作のモチベーションになりますので、  
どうぞよろしくお願いします。

[himawarinotanenenonakami@gmail.com](mailto:himawarinotanenenonakami@gmail.com)